

関西電力株式会社
高浜発電所第1号機

構造、強度又は漏えいに係る
使用前検査成績書

施設名 : 原子炉格納施設

系統名 : 原子炉格納容器

原子炉格納容器配管貫通部及び電気配線貫通部

電気配線貫通部

要領書番号 : 原規規収第 1610071 号 2-20

令和元年 9 月

原子力規制委員会

使用前検査成績書

- 1 発電所名 関西電力株式会社高浜発電所第1号機
- 2 検査の種類 構造、強度又は漏えいに係る使用前検査
- 3 検査申請 使用前検査申請番号
関原発第299号(平成28年10月7日)
(以下、別紙1参照)
- 4 検査期日 自 平成29年9月20日
至 令和元年9月19日
- 5 検査場所 関西電力株式会社高浜発電所
福井県大飯郡高浜町田ノ浦
株式会社ベンカン機工大阪工場
兵庫県尼崎市西長洲町
三菱重工業株式会社神戸造船所
兵庫県神戸市兵庫区和田崎町
- 6 検査範囲 高浜発電所第1号機
発電用原子炉施設
原子炉格納施設
原子炉格納容器
原子炉格納容器配管貫通部及び電気配線貫通部
電気配線貫通部 6個
- 7 検査結果 検査結果一覧表のとおり

3 検査申請

使用前検査申請番号

関原発第434号(平成30年 3月20日)

関原発第 46号(平成30年 4月20日)

関原発第202号(平成30年 7月 4日)

関原発第259号(平成30年 8月20日)

関原発第415号(平成30年12月 5日)

関原発第504号(平成31年 2月 1日)

関原発第512号(平成31年 2月 6日)

関原発第582号(平成31年 3月18日)

関原発第 3号(平成31年 4月 4日)

関原発第 68号(令和 元年 5月16日)

関原発第115号(2019年 6月24日)

関原発第204号(2019年 8月23日)

8 添付資料 使用前検査記録

- 1 検査前確認事項
- 2 材料検査記録
- 3 寸法検査記録
- 4 外観検査記録
- 5 組立て及び据付け状態を確認する検査記録
- 6 耐圧検査、漏えい検査記録
- 7 検査用計器一覧表

9 検査実施者

検査年月日	原子力施設検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
平成 29 年 9 月 20 日	大和田 智 (環境技官) 須貝 実	ボイラー・タービン 主任技術者 [Redacted]	なし
平成 29 年 9 月 21 日	大和田 智 (環境技官) 須貝 実	ボイラー・タービン 主任技術者 [Redacted]	なし
令和元年 5 月 17 日	田中 孝行 高橋 和宏	ボイラー・タービン 主任技術者 [Redacted]	なし

4

9 検査実施者

検査年月日	原子力施設検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
令和元年 9月19日	山形英男 	ボイラー - タービン 主任技術者 	なし
年 月 日		主任技術者	
年 月 日		主任技術者	

5

検査結果一覧表

系統名：原子炉格納容器 原子炉格納容器配管貫通部及び電気配線貫通部 電気配線貫通部

原子力施設検査官 印							検査立会責任者 印	備考
検査項目	材料検査	寸法検査	外観検査	組立て及び据付け状態を確認する検査	耐圧検査、漏えい検査			
検査日	平成 29年 9月 20日	平成 29年 9月 20日	平成 29年 9月 20日	年 月 日	年 月 日	平成 29年 9月 20日		
結果	良	良	良			ボイラ-タービン主任技術者		
印	[Redacted]					[Redacted]		
検査日	平成 29年 9月 21日	年 月 日	平成 29年 9月 21日	年 月 日	年 月 日	平成 29年 9月 21日		
結果	良		良			ボイラ-タービン主任技術者		
印	[Redacted]					[Redacted]		
検査日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	令和元年 5月 17日	令和 元年 5月 17日		
結果					良	ボイラ-タービン主任技術者		
印					[Redacted]	[Redacted]		

9

検査結果一覧表

系統名：原子炉格納容器 原子炉格納容器配管貫通部及び電気配線貫通部 電気配線貫通部

原子力施設検査官 印							検査立会責任者 印	備考
検査項目	材料検査	寸法検査	外観検査	組立て及び据付け状態を確認する検査	耐圧検査、漏えい検査	主任技術者		
検査日	令和元年 9月19日	令和元年 9月19日	令和元年 9月19日	令和元年 9月19日	令和元年 9月19日	令和元年 9月19日	主任技術者	
結果	良	良	良	良	良	主任技術者		
印								
検査日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	主任技術者	
結果							主任技術者	
印								
検査日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	主任技術者	
結果							主任技術者	
印								

7

高浜発電所第1号機 使用前検査記録

検査前確認事項

共通事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	令和元年 5月17日	良	使用前検査成績書の「3 検査申請」に申請番号（変更申請番号を含む。）を記載する。
		令和元年 9月19日	良	
		年 月 日		
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであることを確認する。	記録確認	令和元年 5月17日	良	
		令和元年 9月19日	良	
		年 月 日		
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	令和元年 5月17日	良	
		令和元年 9月19日	良	
		年 月 日		

高浜発電所第1号機 使用前検査記録

検査前確認事項

材料検査

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	平成 29 年 9 月 20 日	良	
		平成 29 年 9 月 21 日	良	
		令和元年 9 月 19 日	良	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	平成 29 年 9 月 20 日	良	
		平成 29 年 9 月 21 日	良	
		令和元年 9 月 19 日	良	

高浜発電所第1号機 使用前検査記録

検査前確認事項

寸法検査

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	平成 29 年 9 月 20 日	良	
		令和元 年 9 月 19 日	良	
		年 月 日	/	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	平成 29 年 9 月 20 日	良	
		令和元 年 9 月 19 日	良	
		年 月 日	/	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	平成 29 年 9 月 20 日	良	
		令和元 年 9 月 19 日	良	
		年 月 日	/	

高浜発電所第1号機 使用前検査記録

検査前確認事項

外観検査

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	平成29年 9月20日	良	
		平成29年 9月21日	良	
		令和元年 9月19日	良	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	平成29年 9月20日	良	
		平成29年 9月21日	良	
		令和元年 9月19日	良	

高浜発電所第1号機 使用前検査記録

検査前確認事項

組立て及び据付け状態を確認する検査記録

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	令和元年 9月19日	良	
		年 月 日	/	
		年 月 日	/	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	令和元年 9月19日	良	
		年 月 日	/	
		年 月 日	/	

高浜発電所第1号機 使用前検査記録

検査前確認事項

耐圧検査、漏えい検査

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	令和元年 5月17日	良	
		年 月 日	/	
		年 月 日	/	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	令和元年 5月17日	良	
		年 月 日	/	
		年 月 日	/	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	令和元年 5月17日	良	
		年 月 日	/	
		年 月 日	/	
系統構成が完了していること。	立会 記録確認	令和元年 5月17日	良	
		年 月 日	/	
		年 月 日	/	

高浜発電所第1号機 使用前検査記録

検査前確認事項

耐圧検査、漏えい検査

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	令和元年 9月19日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	令和元年 9月19日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	令和元年 9月19日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		
系統構成が完了していること。	立会/ 記録確認	令和元年 9月19日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		

高浜発電所第1号機

材料検査記録

検査場所：三菱重工業株式会社神戸造船所

検査範囲：原子炉格納施設 原子炉格納容器 原子炉格納容器配管貫通部及び電気配線貫通部
電気配線貫通部 6個

判定基準：工事計画のとおりであり、技術基準に適合すること。

検査対象 (貫通部番号)	構成	材料	検査年月日	検査 結果	検査方法
550 553 555 557 559 561	スリーブ（新設部）		平成29年 9月21日	良	記録確認

備考

・記録確認は、申請者の品質記録（※）による。

※：適合性確認検査成績書の識別番号：T1-1-0801

高浜発電所第1号機

材料検査記録

検査場所：株式会社ペンカン機工大阪工場

検査範囲：原子炉格納施設 原子炉格納容器 原子炉格納容器配管貫通部及び電気配線貫通部
電気配線貫通部 6個

判定基準：工事計画のとおりであり、技術基準に適合すること。

検査対象 (貫通部番号)	構成	材料	検査年月日	検査 結果	検査方法
550 553 555 557 559 561	本体	[REDACTED]	平成 29年 9月20日	良	記録確認
	端板				

備考

・記録確認は、申請者の品質記録（※）による。

※：適合性確認検査成績書の識別番号：T1-1-0801

高浜発電所第1号機

材料検査記録

検査場所：

検査範囲：原子炉格納施設 原子炉格納容器 原子炉格納容器配管貫通部及び電気配線貫通部
電気配線貫通部 6個

判定基準：工事計画のとおりであり、技術基準に適合すること。

検査対象 (貫通部番号)	構成	材料	検査年月日	検査 結果	検査方法
550 553 555 557 559 561	本体	[Redacted]	令和元年 9月19日	良	記録確認
	端板				

備考

・記録確認は、申請者の品質記録（※）による。

※：適合性確認検査成績書の識別番号： T1-1-0801

高浜発電所第1号機

寸法検査記録

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査範囲：原子炉格納施設 原子炉格納容器 原子炉格納容器配管貫通部及び電気配線貫通部 電気配線貫通部 6個

判定基準：各部の主要寸法の測定値が許容寸法を満足すること。

検査対象 (貫通部 番号)	構成	外径 (mm)			長さ (mm)			厚さ (mm)			検査年月日	検査 結果	検査方法
		主要 寸法	許容値	測定値	主要 寸法	許容値	測定値	主要 寸法	許容値	測定値			
550	スリーブ (新設部)										令和元年 9月19日	良	記録確認

備考

※1：公称値 ※2：許容値は工事計画による。

・記録確認は、申請者の品質記録（※3）による。

※3：適合性確認検査成績書の識別番号： T1-1-0801

81

高浜発電所第1号機

寸法検査記録

検査場所：株式会社ベンカン機工大阪工場

検査範囲：原子炉格納施設 原子炉格納容器 原子炉格納容器配管貫通部及び電気配線貫通部 電気配線貫通部 6個

判定基準：各部の主要寸法の測定値が許容寸法を満足すること。

検査対象 (貫通部 番号)	構成	外径(mm)			長さ(mm)			厚さ(mm)			検査年月日	検査 結果	検査方法
		主要 寸法	許容値	測定値	主要 寸法	許容値	測定値	主要 寸法	許容値	測定値			
550											平成29年 9月20日	良	記録確認

備考

※1：公称値 ※2：許容値は工事計画による。 ※3：許容値はメーカー基準による。

・記録確認は、申請者の品質記録(※4)による。

※4：適合性確認検査成績書の識別番号：T1-1-0801

61

高浜発電所第1号機

寸法検査記録

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査範囲：原子炉格納施設 原子炉格納容器 原子炉格納容器配管貫通部及び電気配線貫通部 電気配線貫通部 6個

判定基準：各部の主要寸法の測定値が許容寸法を満足すること。

検査対象 (貫通部 番号)	構成	外径 (mm)			長さ (mm)			厚さ (mm)			検査年月日	検査 結果	検査方法
		主要 寸法	許容値	測定値	主要 寸法	許容値	測定値	主要 寸法	許容値	測定値			
553	スリーブ (新設部)										令和元年 9月19日	良	記録確認

備考

※1：公称値 ※2：許容値は工事計画による。

・記録確認は、申請者の品質記録（※3）による。

※3：適合性確認検査成績書の識別番号： T1-1-0801

高浜発電所第1号機

寸法検査記録

検査場所：株式会社ベンカン機工大阪工場

検査範囲：原子炉格納施設 原子炉格納容器 原子炉格納容器配管貫通部及び電気配線貫通部 電気配線貫通部 6個

判定基準：各部の主要寸法の測定値が許容寸法を満足すること。

検査対象 (貫通部 番号)	構成	外径(mm)			長さ(mm)			厚さ(mm)			検査年月日	検査 結果	検査方法
		主要 寸法	許容値	測定値	主要 寸法	許容値	測定値	主要 寸法	許容値	測定値			
553		[Redacted]									平成29年 9月20日	良	記録確認

備考

※1：公称値 ※2：許容値は工事計画による。 ※3：許容値はメーカー基準による。

・記録確認は、申請者の品質記録(※4)による。

※4：適合性確認検査成績書の識別番号：T1-1-0801

21

高浜発電所第1号機

寸法検査記録

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査範囲：原子炉格納施設 原子炉格納容器 原子炉格納容器配管貫通部及び電気配線貫通部 電気配線貫通部 6個

判定基準：各部の主要寸法の測定値が許容寸法を満足すること。

検査対象 (貫通部 番号)	構成	外径 (mm)			長さ (mm)			厚さ (mm)			検査年月日	検査 結果	検査方法
		主要 寸法	許容値	測定値	主要 寸法	許容値	測定値	主要 寸法	許容値	測定値			
555	スリーブ (新設部)	[Redacted]									令和元年 9月19日	良	記録確認

備考

※1：公称値 ※2：許容値は工事計画による。

・記録確認は、申請者の品質記録（※3）による。

※3：適合性確認検査成績書の識別番号： T1-1-0801

22

高浜発電所第1号機

寸法検査記録

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査範囲：原子炉格納施設 原子炉格納容器 原子炉格納容器配管貫通部及び電気配線貫通部 電気配線貫通部 6個

判定基準：各部の主要寸法の測定値が許容寸法を満足すること。

検査対象 (貫通部 番号)	構成	外径 (mm)			長さ (mm)			厚さ (mm)			検査年月日	検査 結果	検査方法	
		主要 寸法	許容値	測定値	主要 寸法	許容値	測定値	主要 寸法	許容値	測定値				
555		[Redacted]										令和元年 9月19日	良	記録確認

備考

※1：公称値 ※2：許容値は工事計画による。 ※3：許容値はメーカー基準による。

・記録確認は、申請者の品質記録（※4）による。

※4：適合性確認検査成績書の識別番号： T1-1-0801

23

高浜発電所第1号機

寸法検査記録

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査範囲：原子炉格納施設 原子炉格納容器 原子炉格納容器配管貫通部及び電気配線貫通部 電気配線貫通部 6個

判定基準：各部の主要寸法の測定値が許容寸法を満足すること。

検査対象 (貫通部 番号)	構成	外径 (mm)			長さ (mm)			厚さ (mm)			検査年月日	検査 結果	検査方法
		主要 寸法	許容値	測定値	主要 寸法	許容値	測定値	主要 寸法	許容値	測定値			
557	スリーブ (新設部)										令和元年 9月19日	良	記録確認

備考

※1：公称値 ※2：許容値は工事計画による。

・記録確認は、申請者の品質記録（※3）による。

※3：適合性確認検査成績書の識別番号： T1-1-0801

24

高浜発電所第1号機

寸法検査記録

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査範囲：原子炉格納施設 原子炉格納容器 原子炉格納容器配管貫通部及び電気配線貫通部 電気配線貫通部 6個

判定基準：各部の主要寸法の測定値が許容寸法を満足すること。

検査対象 (貫通部 番号)	構成	外径 (mm)			長さ (mm)			厚さ (mm)			検査年月日	検査 結果	検査方法
		主要 寸法	許容値	測定値	主要 寸法	許容値	測定値	主要 寸法	許容値	測定値			
557											令和元年 9月19日	良	記録確認

25

備考

※1：公称値 ※2：許容値は工事計画による。 ※3：許容値はメーカー基準による。

・記録確認は、申請者の品質記録（※4）による。

※4：適合性確認検査成績書の識別番号： T1-1-0801

高浜発電所第1号機

寸法検査記録

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査範囲：原子炉格納施設 原子炉格納容器 原子炉格納容器配管貫通部及び電気配線貫通部 電気配線貫通部 6個

判定基準：各部の主要寸法の測定値が許容寸法を満足すること。

検査対象 (貫通部 番号)	構成	外径 (mm)			長さ (mm)			厚さ (mm)			検査年月日	検査 結果	検査方法
		主要 寸法	許容値	測定値	主要 寸法	許容値	測定値	主要 寸法	許容値	測定値			
559	スリーブ (新設部)	[Redacted]									令和元年 9月19日	良	記録確認

備考

※1：公称値 ※2：許容値は工事計画による。

・記録確認は、申請者の品質記録（※3）による。

※3：適合性確認検査成績書の識別番号： T1-1-0801

26

高浜発電所第1号機

寸法検査記録

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査範囲：原子炉格納施設 原子炉格納容器 原子炉格納容器配管貫通部及び電気配線貫通部 電気配線貫通部 6個

判定基準：各部の主要寸法の測定値が許容寸法を満足すること。

検査対象 (貫通部 番号)	構成	外径 (mm)			長さ (mm)			厚さ (mm)			検査年月日	検査 結果	検査方法
		主要 寸法	許容値	測定値	主要 寸法	許容値	測定値	主要 寸法	許容値	測定値			
559											令和元年 9月19日	良	記録確認

備考

※1：公称値 ※2：許容値は工事計画による。 ※3：許容値はメーカー基準による。

・記録確認は、申請者の品質記録（※4）による。

※4：適合性確認検査成績書の識別番号： T1-1-0801

27

高浜発電所第1号機

寸法検査記録

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査範囲：原子炉格納施設 原子炉格納容器 原子炉格納容器配管貫通部及び電気配線貫通部 電気配線貫通部 6個

判定基準：各部の主要寸法の測定値が許容寸法を満足すること。

検査対象 (貫通部 番号)	構成	外径 (mm)			長さ (mm)			厚さ (mm)			検査年月日	検査 結果	検査方法
		主要 寸法	許容値	測定値	主要 寸法	許容値	測定値	主要 寸法	許容値	測定値			
561	スリーブ (新設部)	[Redacted]									令和元年 9月19日	良	記録確認

備考

※1：公称値 ※2：許容値は工事計画による。

・記録確認は、申請者の品質記録（※3）による。

※3：適合性確認検査成績書の識別番号： T1-1-0801

28

高浜発電所第1号機

寸法検査記録

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査範囲：原子炉格納施設 原子炉格納容器 原子炉格納容器配管貫通部及び電気配線貫通部 電気配線貫通部 6個

判定基準：各部の主要寸法の測定値が許容寸法を満足すること。

検査対象 (貫通部 番号)	構成	外径 (mm)			長さ (mm)			厚さ (mm)			検査年月日	検査 結果	検査方法
		主要 寸法	許容値	測定値	主要 寸法	許容値	測定値	主要 寸法	許容値	測定値			
561											令和元年 9月19日	良	記録確認

備考

※1：公称値 ※2：許容値は工事計画による。 ※3：許容値はメーカー基準による。

・記録確認は、申請者の品質記録（※4）による。

※4：適合性確認検査成績書の識別番号： T1-1-0801

29

高浜発電所第1号機				
外観検査記録				
検査場所：三菱重工業株式会社神戸造船所				
検査範囲：原子炉格納施設 原子炉格納容器 原子炉格納容器配管貫通部及び電気配線貫通部 電気配線貫通部 6個				
判定基準：有害な欠陥（表面に機能・性能に影響を及ぼすおそれのある傷、割れ、変形、腐食、浸食）がないこと。				
検査対象 (貫通部番号)	構成	検査年月日	検査結果	検査方法
550	スリーブ(新設部)	平成29年 9月21日	良	(目視) 記録確認
553			良	(目視) 記録確認
555			良	(目視) 記録確認
557			良	(目視) 記録確認
559			良	(目視) 記録確認
561			良	(目視) 記録確認
備考				
記録確認は、申請者の品質記録(※)による。				
※：適合性確認検査成績書の識別番号				

高浜発電所第1号機

外観検査記録

検査場所：株式会社ベンカン機工大阪工場

検査範囲：原子炉格納施設 原子炉格納容器 原子炉格納容器配管貫通部及び電気配線貫通部
電気配線貫通部 6個

判定基準：有害な欠陥（表面に機能・性能に影響を及ぼすおそれのある傷、割れ、変形、腐食、浸食）がないこと。

検査対象 (貫通部番号)	構成	検査年月日	検査結果	検査方法	
550	[Redacted]	平成29年 9月20日	良	目視/ 記録確認	
553			良	目視/ 記録確認	
555				目視/ 記録確認	
557				目視/ 記録確認	
559				目視/ 記録確認	
561				目視/ 記録確認	
550			平成29年 9月20日	良	目視/ 記録確認
553				良	目視/ 記録確認
555					目視/ 記録確認
557					目視/ 記録確認
559		目視/ 記録確認			
561		目視/ 記録確認			

備考

~~記録確認は、申請者の品質記録（※）による。~~~~※：適合性確認検査成績書の識別番号~~

高浜発電所第1号機

外観検査記録

検査場所：

検査範囲：原子炉格納施設 原子炉格納容器 原子炉格納容器配管貫通部及び電気配線貫通部
電気配線貫通部 6個

判定基準：有害な欠陥（表面に機能・性能に影響を及ぼすおそれのある傷、割れ、変形、腐食、浸食）がないこと。

検査対象 (貫通部番号)	構成	検査年月日	検査結果	検査方法
550	[REDACTED]	令和元年 9月19日	良 良 良 良	目視/ 記録確認
553				目視/ 記録確認
555				目視/ 記録確認
557				目視/ 記録確認
559				目視/ 記録確認
561				目視/ 記録確認
550		令和元年 9月19日	良 良 良 良	目視/ 記録確認
553				目視/ 記録確認
555				目視/ 記録確認
557				目視/ 記録確認
559				目視/ 記録確認
561				目視/ 記録確認

備考

・記録確認は、申請者の品質記録（※）による。

※：適合性確認検査成績書の識別番号： T1-1-0801

高浜発電所第1号機

組立て及び据付け状態を確認する検査記録

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査範囲：原子炉格納施設 原子炉格納容器 原子炉格納容器配管貫通部及び電気配線貫通部
電気配線貫通部 6個

判定基準：工事計画のとおりであり、技術基準に適合すること。

検査対象 (貫通部番号)	検査年月日	検査結果	検査方法
550	令和元年 9月19日	良	目視/ 記録確認
553		良	目視/ 記録確認
555		良	目視/ 記録確認
557		良	目視/ 記録確認
559		良	目視/ 記録確認
561		良	目視/ 記録確認

備考

- ・据付後の外観確認も含めて実施。
- ・記録確認は、申請者の品質記録（※）による。

※：適合性確認検査成績書の識別番号： T1-1-0801

高浜発電所第1号機

耐圧検査、漏えい検査記録

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査範囲：原子炉格納施設 原子炉格納容器 原子炉格納容器配管貫通部及び電気配線貫通部 電気配線貫通部 6個

判定基準：・検査圧力に耐え、かつ、異常がないこと。

・著しい漏えいがないこと。

検査対象 (貫通部番号)	最高使用圧力 (MPa)	耐圧検査規定圧力 (MPa)	耐圧検査時圧力 (MPa)	保持時間 (min)	漏えい検査時圧力 (MPa)	水圧、気圧 区分	検査年月日	検査結果	検査方法
550	0.261 0.305 ^{※1}	0.305	/	/	/	気圧	年	/	目視/ 記録確認
553							月 日		目視/ 記録確認
555							年		目視/ 記録確認
557							月 日		目視/ 記録確認
559							年		目視/ 記録確認
561							月 日		目視/ 記録確認
			0.315	13	0.315		令和元年 5月17日	良	(目視) 記録確認

備考

発泡液 名称: Gupoflex Super 21 (LEAK DETECTOR) No. : [A] 2017.11.29

※1：重大事故等時における使用時の値

~~記録確認は、申請者の品質記録(※2)による。~~

~~※2：適合性確認検査成績書の識別番号。~~

34

高浜発電所第1号機

耐圧検査、漏えい検査記録

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査範囲：原子炉格納施設 原子炉格納容器 原子炉格納容器配管貫通部及び電気配線貫通部 電気配線貫通部 6個

判定基準：
 ・検査圧力に耐え、かつ、異常がないこと。
 ・著しい漏えいがないこと。

検査対象 (貫通部番号)	最高使用圧力 (MPa)	耐圧検査規定圧力 (MPa)	耐圧検査時圧力 (MPa)	保持時間 (min)	漏えい検査時圧力 (MPa)	水圧、気圧 区分	検査年月日	検査結果	検査方法
550	0.261 0.305 ^{*1}	0.305	0.314	11	0.312	気圧	令和元年 9月19日	良	目視/ 記録確認
553			0.314	11	0.312		令和元年 9月19日	良	目視/ 記録確認
555			0.312	11	0.312		令和元年 9月19日	良	目視/ 記録確認
557			0.312	11	0.312		令和元年 9月19日	良	目視/ 記録確認
559			0.314	11	0.313		令和元年 9月19日	良	目視/ 記録確認
561									年 月 日

35

備考

Gupoflex Super21 2017.10.18

発泡液 名称：(LEAK DETECTOR) No: 2017.11.29

※1：重大事故等時における使用時の値

・記録確認は、申請者の品質記録(※2)による。

※2：適合性確認検査成績書の識別番号： T1-1-0801

高浜発電所第1号機 使用前検査記録

検査用計器一覧表

検査年月日：令和 元年 5月17日

検査項目	検査用計器	管理番号	測定範囲	測定精度	校正年月日 有効期限	備考
耐圧・漏えい検査	圧力計				2019. 3. 12	
					2019. 6. 30	
耐圧・漏えい検査	圧力計				2019. 3. 12	
					2019. 6. 30	

関西電力株式会社
高浜発電所第1号機
使用前検査成績書

要領書番号：原規規収第1610071号99

成績書管理番号：2-21

令和2年8月

原子力規制委員会

使用前検査成績書

成績書管理番号：2-21

- 1 発電所名 関西電力株式会社高浜発電所第1号機
- 2 検査申請 検査申請一覧表のとおり
- 3 検査期日 自 令和2年8月20日
至 令和2年8月20日
- 4 検査場所 使用前検査記録のとおり
- 5 検査実施者 検査結果一覧表のとおり
- 6 検査結果 検査結果一覧表のとおり
- 7 添付資料 使用前検査記録

検査申請一覧表

検査申請書番号 (申請年月日)	関原発第299号(平成28年10月7日) 関原発第434号(平成30年3月20日) 関原発第46号(平成30年4月20日) 関原発第202号(平成30年7月4日) 関原発第259号(平成30年8月20日) 関原発第415号(平成30年12月5日) 関原発第504号(平成31年2月1日) 関原発第512号(平成31年2月6日) 関原発第582号(平成31年3月18日) 関原発第3号(平成31年4月4日) 関原発第68号(2019年5月16日) 関原発第115号(2019年6月24日) 関原発第204号(2019年8月23日) 関原発第478号(2020年1月23日) 関原発第510号(2020年1月31日) 関原発第542号(2020年2月26日) 関原発第609号(2020年3月24日) 関原発第 20号(2020年4月 7日)
--------------------	--

上記以降の変更を検査申請書の変更申請により確認し表中に追記する。

検査結果一覧表

成績書管理番号：2-21

検査年月日	検査結果	原子力検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
令和2年 8月20日	良	増本 豊	発電用原子力主任技術者 ボイラータービン主任技術者	なし

6

関西電力株式会社高浜発電所第 1 号機 使用前検査記録
共通事項

成績書管理番号：2-21

検査年月日：令和2年 8 月 20 日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査前確認事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	◎良・—	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	◎良・—	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	◎良・—	

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録 (三号検査)

成績書管理番号：2-21

検査年月日：令和2年 8 月 20 日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	良・—	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	良・—	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	良・—	
系統構成が完了していること。	立会 記録確認	良・—	

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録 (三号検査)

成績書管理番号：2-21

検査年月日：令和2年 8月 20日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査結果

検査対象			
核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 燃料取扱設備 新燃料又は使用済燃料を取扱う機器 使用済燃料ピットクレーン 別添1参照			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
系統機能検査 ・動力源喪失検査 ・過荷重検査 系統運転性能検査 ・容量確認検査	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	良	<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center; gap: 10px;"> 目視 記録確認 </div>
備考 ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録（※）による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：T1-3-0101 ・目視で確認した範囲：添付資料3-3参照			

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録
 (三号検査)
 (立会検査)

成績書管理番号：2-21

検査年月日：令和2年 8月 20日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査結果

検査対象設備名	項目	測定値等	検査結果	検査方法
使用済燃料ピットクレーン (別添1参照)	動力源喪失検査	—	良	目視*
	過荷重検査	—	良	
	容量確認検査	—	良	
備考				
※：別添2参照				

核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設

加圧水型発電用原子炉施設に係るものについては、次の事項

1 燃料取扱設備に係る次の事項

(1) 新燃料又は使用済燃料を取扱う機器の名称、種類、容量、主要寸法、材料、個数及び取付箇所

		変更前		変更後	
種	名 称	使用済燃料ピットクレーン (注1)		同左	
	類	橋型ホイストクレーン (注2)			
容	量	-			
	主要寸法	走行サドル長さ	mm		
	走行レール間距離	mm			
	高さ	mm			
	ホイストレール幅	mm			
	ホイストレール高さ	mm			
材	料	-			
個	数	1			
取付箇所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	使用済燃料ピットクレーン (注3)		同左	
	設 置 床	-			
	溢水防護上の 区 画 番 号	-			
	溢水防護上の 配慮が必要な高さ	-			

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料ピットクレーン」と記載

(注2) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「門型」と記載

(注3) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「0.9 t」と記載

(注4) 公称値

(注5) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和47年10月25日付け47公第7787号にて認可された工事計画の添付図面第9図「燃料ピットクレーン全体図」による。

(注6) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

(注7) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ASTM A36 (SS41相当)」と記載

(注8) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。

核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設

加圧水型発電用原子炉施設に係るものにあつては、次の事項

1 燃料取扱設備に係る次の事項

(1) 新燃料又は使用済燃料を取り扱う機器の名称、種類、容量、主要寸法、材料、個数及び取付箇所

			変更前	変更後	
名 称			使用済燃料ピットクレーン	変更なし(注1)	
種 類	-	橋型ホイストクレーン			
容 量	-				
主 要 寸 法	走行サドル長さ			mm	
	走行レール間距離			mm	
	高 さ			mm	
	ホイストレール幅			mm	
	ホイストレール高さ			mm	
材 料	-	1			
個 数	-				
取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	-	使用済燃料ピットクレーン	変更なし(注1)	
	設 置 床	-			
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	-			
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	-			

10

(注1) 平成28年6月10日付け原規規発第1606104号にて認可された既工事計画書には「同左」と記載

(注2) 公称値



関西電力株式会社
高浜発電所第1号機
使用前検査成績書

要領書番号：原規規収第1610071号99

成績書管理番号：2-22

令和2年12月

原子力規制委員会

使用前検査成績書

成績書管理番号：2-22

- 1 発電所名 関西電力株式会社高浜発電所第1号機
- 2 検査申請 検査申請一覧表のとおり
- 3 検査期日 自 令和2年12月21日
至 令和2年12月21日
- 4 検査場所 使用前検査記録のとおり
- 5 検査実施者 検査結果一覧表のとおり
- 6 検査結果 検査結果一覧表のとおり
- 7 添付資料 使用前検査記録

検査申請一覧表

検査申請書番号 (申請年月日)	
	関原発第299号(平成28年10月 7日)
	関原発第434号(平成30年 3月20日)
	関原発第 46号(平成30年 4月20日)
	関原発第202号(平成30年 7月 4日)
	関原発第259号(平成30年 8月20日)
	関原発第415号(平成30年12月 5日)
	関原発第504号(平成31年 2月 1日)
	関原発第512号(平成31年 2月 6日)
	関原発第582号(平成31年 3月18日)
	関原発第 3号(平成31年 4月 4日)
	関原発第 68号(2019年 5月16日)
	関原発第115号(2019年 6月24日)
	関原発第204号(2019年 8月23日)
	関原発第478号(2020年 1月23日)
	関原発第510号(2020年 1月31日)
	関原発第542号(2020年 2月26日)
	関原発第609号(2020年 3月24日)
	関原発第 20号(2020年 4月 7日)
	関原発第236号(2020年 8月21日)

上記以降の変更を検査申請書の変更申請により確認し表中に追記する。

検査結果一覧表

成績書管理番号：2-22

検査年月日	検査結果	原子力検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
令和2年 12月21日	良	山形英男	茨城県原子力庁 主任技術者 	なし

ω

関西電力株式会社高浜発電所第 1 号機 使用前検査記録 共通事項

成績書管理番号：2-22

検査年月日：令和 2 年 12 月 21 日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査前確認事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	◎良・—	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	◎良・—	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	◎良・—	

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録 (三号検査)

成績書管理番号：2-22

検査年月日：令和2年 12月 21日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	◎良 -	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	◎良 -	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	◎良 -	
系統構成が完了していること。	◎立会 ◎記録確認	◎良 -	

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録 (三号検査)

成績書管理番号：2-22

検査年月日：令和2年12月21日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査結果

検査対象			
原子炉冷却系統施設 計測制御系統施設 一次冷却材の循環設備 ほう酸注入機能を有する設備 主要弁 別添1参照			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
動作検査	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	良	<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center; gap: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px 5px;">目視</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px 5px;">記録確認</div> </div>
備考 ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録（※）による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：T1-3-0729 ・目視で確認した範囲：添付資料3-3参照			

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録
 (三号検査)
 (立会検査)

成績書管理番号：2-22

検査年月日：令和2年12月21日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査結果

検査対象設備名	項目	測定値等	検査結果	検査方法
1 PCV-444A 1 PCV-445	動作検査	—	良	目視
以下余白				
備考				

原子炉冷却系統施設

加圧水型発電用原子炉施設に係るもの（蒸気タービンに係るものを除く。）にあつては次の事項

4 一次冷却材の循環設備に係る次の事項

(6) 主要弁の名称、種類、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料、駆動方法、個数及び取付箇所

			変更前	変更後
名 称			1PCV-444A、445 (注1)	1PCV-444A、445 (注2)
種 類	—		止め弁 (注3)	同左
最 高 使 用 圧 力	MPa		17.16 (注4)	同左 18.5 (注5)
最 高 使 用 温 度	℃			
主要寸法	呼 び 径 (注6)	—		
	弁 箱 厚 さ	mm		
	弁 ふ た 厚 さ	mm		
材 料	弁 箱 (注9)	—		
	弁 ふ た	—		
駆 動 方 法	—		空気作動 (注11)	
個 数	—		2	
(注12) 取付箇所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—		同左
	設 置 床	—		
	溢水防護上の区画番号	—		
	溢水防護上の配慮が 必 要 な 高 さ	—		

8



計測制御系統施設

加圧水型発電用原子炉施設に係るもの（発電用原子炉の運転を管理するための制御装置に係るものを除く。）にあつては、次の事項

4 ほう酸注入機能を有する設備に係る次の事項

- (4) 主要弁の名称、種類、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料、駆動方法、個数及び取付箇所

以下の設備は、既存の原子炉冷却系統施設のうち一次冷却材の循環設備であり、ほう酸注入機能を有する設備として本工事計画で兼用とする。

・常設

1PCV-444A、445

関西電力株式会社
高浜発電所第1号機
使用前検査成績書

要領書番号：原規規収第1610071号99

成績書管理番号：2-23

令和2年12月

原子力規制委員会

使用前検査成績書

成績書管理番号：2-23

- 1 発電所名 関西電力株式会社高浜発電所第1号機
- 2 検査申請 検査申請一覧表のとおり
- 3 検査期日 自 令和2年12月24日
至 令和2年12月24日
- 4 検査場所 使用前検査記録のとおり
- 5 検査実施者 検査結果一覧表のとおり
- 6 検査結果 検査結果一覧表のとおり
- 7 添付資料 使用前検査記録

検査申請一覧表

検査申請書番号 (申請年月日)	関原発第299号(平成28年10月7日) 関原発第434号(平成30年3月20日) 関原発第46号(平成30年4月20日) 関原発第202号(平成30年7月4日) 関原発第259号(平成30年8月20日) 関原発第415号(平成30年12月5日) 関原発第504号(平成31年2月1日) 関原発第512号(平成31年2月6日) 関原発第582号(平成31年3月18日) 関原発第3号(平成31年4月4日) 関原発第68号(2019年5月16日) 関原発第115号(2019年6月24日) 関原発第204号(2019年8月23日) 関原発第478号(2020年1月23日) 関原発第510号(2020年1月31日) 関原発第542号(2020年2月26日) 関原発第609号(2020年3月24日) 関原発第20号(2020年4月7日) 関原発第236号(2020年8月21日)
--------------------	--

上記以降の変更を検査申請書の変更申請により確認し表中に追記する。

検査結果一覧表

成績書管理番号：2-23

検査年月日	検査結果	原子力施設検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
令和2年 12月24日	良	増本豊	奈良県原子力センター 主任技術者  ボイラーセンター 主任技術者 	なし

3

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録
共通事項

成績書管理番号：2-23

検査年月日：令和2年 12月 24日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査前確認事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	Ⓔ・—	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	Ⓔ・—	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	Ⓔ・—	

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録 (三号検査)

成績書管理番号：2-23

検査年月日：令和2年 12 月 28 日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	良・一	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	良・一	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	良・⊖	
系統構成が完了していること。	立会 記録確認	良・一	

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録 (三号検査)

成績書管理番号：2-23

検査年月日：令和2年12月24日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査結果

検査対象			
原子炉冷却系統施設 一次冷却材の循環設備 主配管 別添1及び別添2参照			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
系統機能検査 ・通水検査	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	良	<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center; gap: 10px;"> 目視 記録確認 </div>
備考 ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録（※）による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：T1-3-0002 ・目視で確認した範囲：添付資料3-3参照			

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録
 (三号検査)
 (立会検査)

成績書管理番号：2-23

検査年月日：令和2年12月24日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査結果

検査対象設備名	項目	測定値等	検査結果	検査方法
別添1参照	系統機能検査 ・通水検査	-	良	目視*
備考 ※ 別添2参照,				

原子炉冷却系統施設

加圧水型発電用原子炉施設に係るもの（蒸気タービンに係るものを除く。）にあつては次の事項

4 一次冷却材の循環設備に係る次の事項

(7) 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

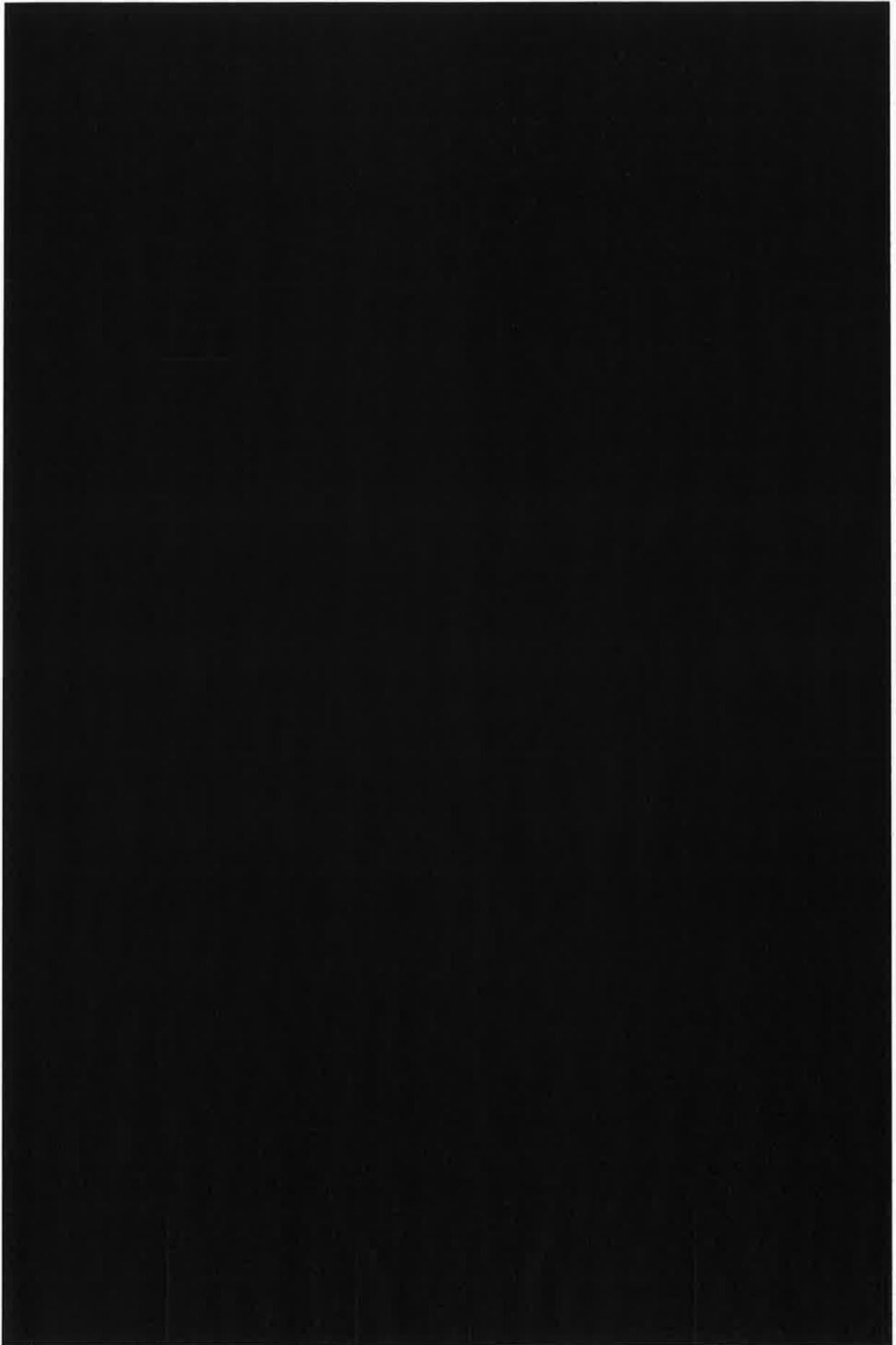
変更前						変更後							
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料		
	圧力	温度					圧力	温度					
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			
一次冷却材の循環設備	(注22) 加圧器 ～ 弁 (1V-8010A、B、C)	(注2) 17.16	360	(注3) 168.3	(注3, 23) 18.3	SUS32TP	一次冷却材の循環設備	(注6) 加圧器 ～ 弁 (1V-8010A、B、C)	変更なし (注7) 18.5	360	168.3	18.3	SUS32TP
	(注24) 加圧器 ～ 弁 (1MOV-8000A、B) 入口 レギュレーサ (6×3)	(注2) 17.16	360	(注3) 168.3	(注3, 23) 18.3	SUS32TP		(注6) 加圧器 ～ 弁 (1MOV-8000A、B) 入口 レギュレーサ (6×3)	変更なし (注7) 18.5	変更なし	変更なし	同左 (注43, 44)	
				(注3, 11) 168.3	(注3, 11) 18.3	(注11) SUS32TP					同左 (注43, 44)		
				(注3, 11) 168.3	(注3, 11) 18.3	(注11) SUS32TP					同左 (注43, 44)		

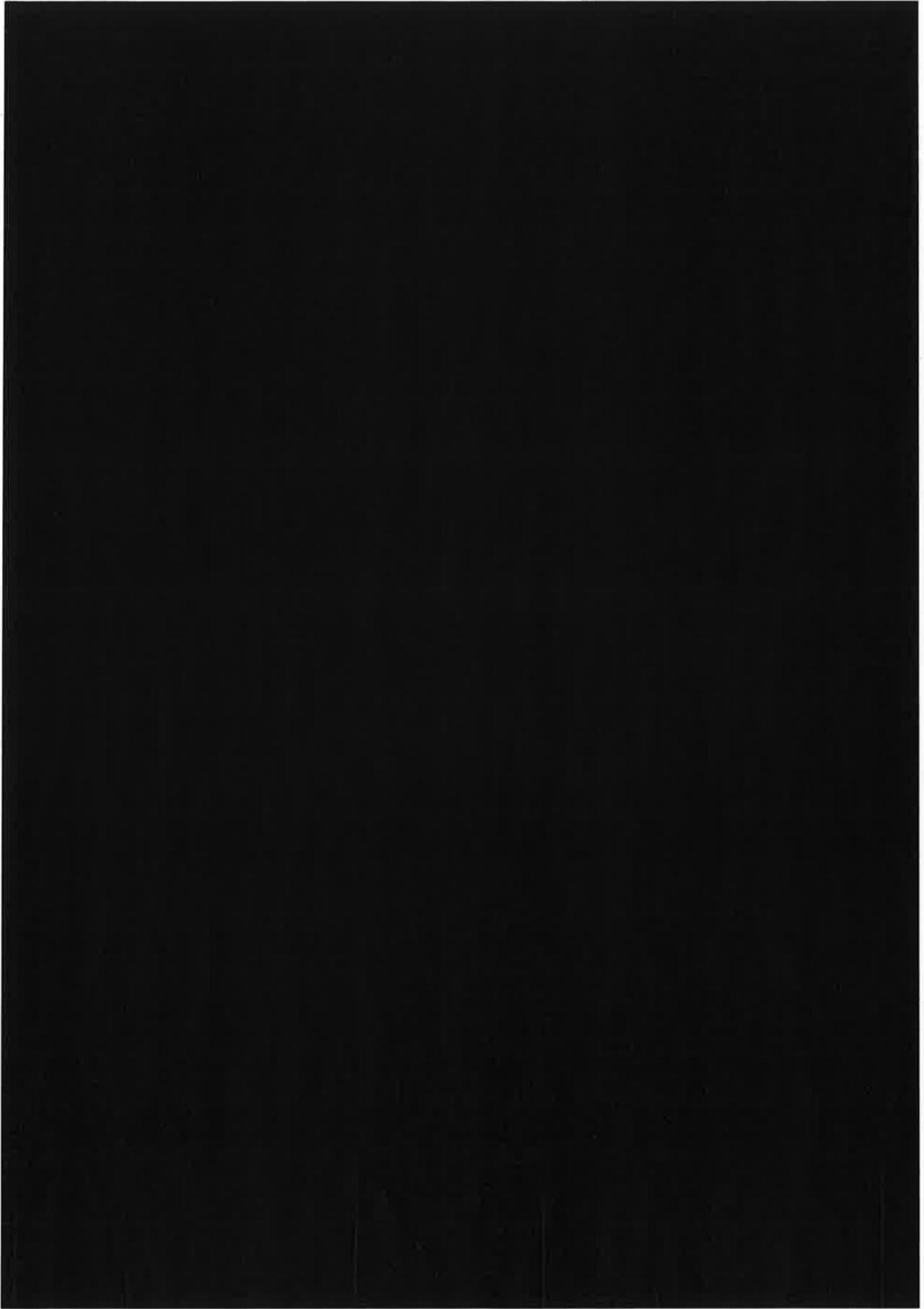
と

変更前						変更後						
名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	
	圧 力	温 度					圧 力	温 度				(mm)
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)		(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			
一次冷却材の循環設備	(注26) 弁 (1MOV-8000A、B) 入口 レジューサ (6×3) ～ 弁 (1PCV-444A、 1PCV-445)	(注2) 17.16	360	(注3) 88.9	(注3) 11.1	SUS27TP	一次冷却材の循環設備	(注6) 弁 (1MOV-8000A、B) 入口 レジューサ (6×3) ～ 弁 (1PCV-444A、 1PCV-445)	変更なし (注7) 18.5	変更なし	変更なし	同左 (注43, 45)

6

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
一次冷却材の循環設備	(注41) 弁 (1V-8940A、B、C) ～ 6B 安全注入系 ライン用管台	17.16	343	(注3) 168.3	(注3, 25) 18.3	SUS316TP	変更なし				
	(注42) 弁 (1V-8945A、B、C) ～ 6B 安全注入系 ライン用管台	17.16	343	(注3) 168.3	(注3, 25) 18.3	SUS316TP	(注6) 弁 (1V-8945A、B、C) ～ 6B 安全注入系 ライン用管台	変更なし (注7) 18.5	変更なし (注7) 360	変更なし	







14/E

工事計画認可申請	第3-2-4図
高浜発電所第1号機	
原子炉冷却系統施設の系統図 (一次冷却材の循環設備)(4/4) (重大事故等対処設備)	
関西電力株式会社	

関西電力株式会社
高浜発電所第1号機

発電用原子炉に燃料体を挿入することが
できる状態になった時に係る
使用前検査成績書

施設名：原子炉冷却系統施設

系統名：余熱除去設備

非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備

安全弁及び逃がし弁（常設）

要領書番号：原規規収第1610071号2-24

令和元年12月

原子力規制委員会

使用前検査成績書

- 1 発電所名 関西電力株式会社高浜発電所第1号機
- 2 検査の種類 発電用原子炉に燃料体を挿入することができる状態になった時に係る
使用前検査
- 3 検査申請 使用前検査申請番号
関原発第299号(平成28年10月7日)、関原発第434号(平成30年3月20日)、
関原発第46号(平成30年4月20日)、関原発第202号(平成30年7月4日)、
関原発第259号(平成30年8月20日)、関原発第415号(平成30年12月5日)、
関原発第504号(平成31年2月1日)、関原発第512号(平成31年2月6日)、
関原発第582号(平成31年3月18日)、関原発第3号(平成31年4月4日)、
関原発第68号(2019年5月16日)、関原発第115号(2019年6月24日)、
関原発第204号(2019年8月23日)
- 4 検査期日 自 令和元年12月19日
至 令和元年12月20日
- 5 検査場所 関西電力株式会社高浜発電所
福井県大飯郡高浜町田ノ浦
- 6 検査範囲 高浜発電所第1号機
発電用原子炉施設
原子炉冷却系統施設
余熱除去設備
非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備
安全弁及び逃がし弁(常設) 2個
- 7 検査結果 検査実施者及び検査結果一覧表のとおり

検査実施者及び検査結果一覧表

検査項目	検査結果	原子力施設検査官	検査立会責任者
系統性能検査 性能検査	良	令和元年12月 ¹⁹ 日	令和元年12月 ²⁰ 日
		上田 洋	本間 隆彦 主任技術者

8 特記事項

なし

9 添付資料

使用前検査記録

- 1 検査前確認事項
- 2 性能検査記録
- 3 検査用計器一覧表

高浜発電所第 1 号機 使用前検査記録

検査前確認事項

共通事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	令和元年 12月 ¹⁹ 20日	良	使用前検査成績書の「3検査申請」に申請番号（変更申請番号を含む。）を記載する。
		年 月 日		
		年 月 日		
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	令和元年 12月 ¹⁹ 20日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	令和元年 12月 ¹⁹ 20日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		

高浜発電所第 1 号機 使用前検査記録

検査前確認事項

系統性能検査

性能検査

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	令和元 年 12 月 19 日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	令和元 年 12 月 19 日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	令和元 年 12 月 19 日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		

高浜発電所第1号機							
性能検査記録							
検査場所：関西電力株式会社高浜発電所							
検査範囲：原子炉冷却系統施設 余熱除去設備 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 安全弁及び逃がし弁（常設）：2個							
判定基準：所定の性能を有すること。							
検査対象	項目 (単位)	工事計画 記載値	許容値	確認値	検査年月日	検査 結果	検査方法
1V-8860A	吹出圧力 (MPa)	4.1	3.96～ 4.10 ^{*1}	4.00	令和元年 12月19日	良	目視 記録確認
	吹出量 (kg/h)	4,542以上	4,542 以上 ^{*2}	12505			
1V-8860B	吹出圧力 (MPa)	4.1	3.96～ 4.10 ^{*1}	/	令和元年 12月20日	良	目視 記録確認
	吹出量 (kg/h)	4,542以上	4,542 以上 ^{*2}				
備考							
※1：許容値はJISによる。							
※2：許容値は工事計画による。							
・記録確認は、申請者の品質記録（※3）による。							
※3：適合性確認検査成績書の識別番号：T1-3-0204							

高浜発電所第 1 号機 使用前検査記録

検査用計器一覧表

検査年月日：令和元年 12 月 19 日

検査項目	検査用計器	管理番号	測定範囲	測定精度	校正年月日 有効期限	備考
性能検査	圧力計	[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]	2019/8/28	
					2020/8/27	
性能検査	圧力計	[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]	2019/3/14	
					2020/3/13	
以下余白						

関西電力株式会社
高浜発電所第1号機
使用前検査成績書

要領書番号：原規規収第1610071号99

成績書管理番号：2-25

令和2年 9月

原子力規制委員会

使用前検査成績書

成績書管理番号：2-25

- 1 発電所名 関西電力株式会社高浜発電所第1号機
- 2 検査申請 検査申請一覧表のとおり
- 3 検査期日 自 令和2年9月10日
至 令和2年9月10日
- 4 検査場所 使用前検査記録のとおり
- 5 検査実施者 検査結果一覧表のとおり
- 6 検査結果 検査結果一覧表のとおり
- 7 添付資料 使用前検査記録

検査申請一覧表

検査申請書番号 (申請年月日)	関原発第299号(平成28年10月7日) 関原発第434号(平成30年3月20日) 関原発第46号(平成30年4月20日) 関原発第202号(平成30年7月4日) 関原発第259号(平成30年8月20日) 関原発第415号(平成30年12月5日) 関原発第504号(平成31年2月1日) 関原発第512号(平成31年2月6日) 関原発第582号(平成31年3月18日) 関原発第3号(平成31年4月4日) 関原発第68号(2019年5月16日) 関原発第115号(2019年6月24日) 関原発第204号(2019年8月23日) 関原発第478号(2020年1月23日) 関原発第510号(2020年1月31日) 関原発第542号(2020年2月26日) 関原発第609号(2020年3月24日) 関原発第20号(2020年4月7日) 関原発第236号(2020年8月21日)
--------------------	--

上記以降の変更を検査申請書の変更申請により確認し表中に追記する。

検査結果一覧表

成績書管理番号：2-25

検査年月日	検査結果	原子力施設検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
令和2年 9月10日	良	平井 隆	栗田 隆之介 主任技術者 [Redacted] 木村 一之丞 主任技術者 [Redacted]	なし

w

関西電力株式会社高浜発電所第 1 号機 使用前検査記録 (三号検査)

成績書管理番号：2-25

検査年月日：令和 2 年 9 月 10 日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	良・—	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	良・—	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	良・—	
系統構成が完了していること。	立会/ 記録確認	良・—	

関西電力株式会社高浜発電所第 1 号機 使用前検査記録 (三号検査)

成績書管理番号：2-25

検査年月日：令和 2 年 9 月 10 日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査結果

検 査 対 象			
原子炉冷却系統施設 計測制御系統施設 原子炉格納施設 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 ほう酸注入機能を有する設備 圧力低減設備その他の安全設備（格納容器安全設備） 容器 燃料取替用水タンク 別添 1 参照の太線枠内の範囲			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
容量確認検査	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	良	目視 記録確認
備考 ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録（※）による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：T1-3-1905 ・目視で確認した範囲：添付資料 3 - 3 参照			

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録
 (三号検査)
 (立会検査)

成績書管理番号：2-25

検査年月日：令和2年 9月 10日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査結果

検査対象設備名	項目	測定値等	検査結果	検査方法
燃料取替用水タンク	容量確認検査		良	目視
燃料取替用水タンク	容量確認検査		良	
検査対象設備名				
備考 ※1：中央制御室の燃料取替用水タンク水位計指示 ※2：燃料取替用水タンク容量換算値 $V = 1770 \times H / 100$ V：燃料取替用水タンク容量 (m ³) H：水位計指示 (%)				

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録
検査用計器一覧表

成績書管理番号：2-25

検査年月日：令和2年 9月 10日

検査項目	検査用計器	管理番号	測定範囲	測定精度	校正年月日 有効期限	備考
容量確認検査	燃料取替用水タンク水位計				2020. 8. 31 ※	
容量確認検査	燃料取替用水タンク水位計				2020. 8. 31 ※	
以下余白						

※：第28回定期事業者検査まで

工事計画本文（原規規発第1606104号（平成28年6月10日認可））

原子炉冷却系統施設

加圧水型発電用原子炉施設に係るもの（蒸気タービンに係るものを除く。）にあつては次の事項

7 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備に係る次の事項

(2) 容器の名称、種類、容量、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料、個数及び取付箇所

・常設

(1/3)

		変更前	変更後
名称		燃料取替用水タンク	燃料取替用水タンク (注1)
種類	—	たて置円筒形	
容量	m ³ /個		同左
最高使用圧力	—	大気圧	
最高使用温度	℃	95	
主要寸法	胴内径	mm	
	胴板厚さ	mm	
	屋根板厚さ	mm	
	底板厚さ (注5)	mm	
	出口管台 (余熱除去ポンプ) 外径	mm	
	出口管台 (余熱除去ポンプ) 厚さ	mm	

6

		変更前	変更後
主要寸法	出口管台 (内部スプレポンプ) 外径	mm	
	出口管台 (内部スプレポンプ) 厚さ	mm	
	給水入口管台外径	mm	
	給水入口管台厚さ	mm	
	出口管台 (充てん/高圧注入ポンプ) 外径	mm	
	出口管台 (充てん/高圧注入ポンプ) 厚さ	mm	
	出口管台 (燃料取替用水ポンプ) 外径	mm	
	出口管台 (燃料取替用水ポンプ) 厚さ	mm	

			変更前	変更後	
主要寸法	側マンホール管台外径	mm	[Redacted]	同左	
	側マンホール管台厚さ	mm			
	側マンホールふた厚さ	mm			
	高さ ^(注7)	mm			
材料	胴板	—	[Redacted]	同左	
	屋根板	—			
	底板 ^(注8)	—			
	側マンホールふた	—			
個	数	—	[Redacted]	同左	
取付箇所	系統名 (ライン名)	—			燃料取替用水ライン ^(注9)
	設置床	—			[Redacted]
	溢水防護上の 区画番号	—			
	溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—			

10



関西電力株式会社
高浜発電所第1号機

発電用原子炉に燃料体を挿入することが
できる状態になった時に係る
使用前検査成績書

施設名：原子炉冷却系統施設

系統名：非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備
安全弁及び逃がし弁（常設）

要領書番号：原規規収第1610071号2-27

令和元年12月

原子力規制委員会

使用前検査成績書

- 1 発電所名 関西電力株式会社高浜発電所第1号機
- 2 検査の種類 発電用原子炉に燃料体を挿入することができる状態になった時に係る
使用前検査
- 3 検査申請 使用前検査申請番号
関原発第299号(平成28年10月7日)、関原発第434号(平成30年3月20日)、
関原発第46号(平成30年4月20日)、関原発第202号(平成30年7月4日)、
関原発第259号(平成30年8月20日)、関原発第415号(平成30年12月5日)、
関原発第504号(平成31年2月1日)、関原発第512号(平成31年2月6日)、
関原発第582号(平成31年3月18日)、関原発第3号(平成31年4月4日)、
関原発第68号(2019年5月16日)、関原発第115号(2019年6月24日)、
関原発第204号(2019年8月23日)
- 4 検査期日 自 令和元年12月19日
至 令和元年12月19日
- 5 検査場所 関西電力株式会社高浜発電所
福井県大飯郡高浜町田ノ浦
- 6 検査範囲 高浜発電所第1号機
発電用原子炉施設
原子炉冷却系統施設
非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備
安全弁及び逃がし弁(常設) 1個
- 7 検査結果 検査実施者及び検査結果一覧表のとおり

検査実施者及び検査結果一覧表

検査項目	検査結果	原子力施設検査官	検査立会責任者
系統性能検査 性能検査	良	令和元年12月19日	令和元年12月19日
		上田 洋	木匠 久之丞 主任技術者

8 特記事項

なし

9 添付資料

使用前検査記録

- 1 検査前確認事項
- 2 性能検査記録
- 3 検査用計器一覧表

高浜発電所第 1 号機 使用前検査記録

検査前確認事項

共通事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	令和元 年 12 月 19 日	良	使用前検査成績書の「3 検査申請」に申請番号（変更申請番号を含む。）を記載する。
		年 月 日		
		年 月 日		
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	令和元 年 12 月 19 日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	令和元 年 12 月 19 日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		

高浜発電所第1号機 使用前検査記録

検査前確認事項

系統性能検査

性能検査

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	令和元年 12月19日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	令和元年 12月19日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	令和元年 12月19日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		

高浜発電所第1号機							
性能検査記録							
検査場所：関西電力株式会社高浜発電所							
検査範囲：原子炉冷却系統施設 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 安全弁及び逃がし弁（常設）：1個							
判定基準：所定の性能を有すること。							
検査対象	項目 (単位)	工事計画 記載値	許容値	確認値	検査年月日	検査 結果	検査方法
IV-8861	吹出圧力 (MPa)	4.1	3.96~ 4.10 ^{*1}	4.10	令和元 12月19日	良	目視 記録確認
	吹出量 (kg/h)	4,542以上	4,542 以上 ^{*2}	12655			
備考							
※1：許容値はJ I Sによる。							
※2：許容値は工事計画による。							
※3：記録確認は、申請者の品質記録（※3）による。							
※3：適合性確認検査成績書の識別番号：							

高浜発電所第 1 号機 使用前検査記録

検査用計器一覧表

検査年月日: 令和元 年 12 月 19 日

検査項目	検査用計器	管理番号	測定範囲	測定精度	校正年月日 有効期限	備考
性能検査	圧力計				2019/8/28 2020/8/27	
性能検査	圧力計				2019/3/14 2020/3/13	
以下余白						

関西電力株式会社
高浜発電所第1号機
使用前検査成績書

要領書番号：原規規収第1610071号99

成績書管理番号：2-28

令和2年12月

原子力規制委員会

使用前検査成績書

成績書管理番号：2-28

- 1 発電所名 関西電力株式会社高浜発電所第1号機
- 2 検査申請 検査申請一覧表のとおり
- 3 検査期日 自 令和 2 年 10 月 16 日
至 令和 2 年 12 月 23 日
- 4 検査場所 使用前検査記録のとおり
- 5 検査実施者 検査結果一覧表のとおり
- 6 検査結果 検査結果一覧表のとおり
- 7 添付資料 使用前検査記録

検査申請一覧表

検査申請書番号 (申請年月日)	関原発第299号(平成28年10月7日) 関原発第434号(平成30年 3月20日) 関原発第 46号(平成30年 4月20日) 関原発第202号(平成30年 7月 4日) 関原発第259号(平成30年 8月20日) 関原発第415号(平成30年12月 5日) 関原発第504号(平成31年 2月 1日) 関原発第512号(平成31年 2月 6日) 関原発第582号(平成31年 3月18日) 関原発第 3号(平成31年 4月 4日) 関原発第 68号(2019年 5月16日) 関原発第115号(2019年 6月24日) 関原発第204号(2019年 8月23日) 関原発第478号(2020年 1月23日) 関原発第510号(2020年 1月31日) 関原発第542号(2020年 2月26日) 関原発第609号(2020年3月24日) 関原発第 20号(2020年4月 7日) 関原発第236号(2020年8月21日)
--------------------	--

上記以降の変更を検査申請書の変更申請により確認し表中に追記する。

検査結果一覧表

成績書管理番号：2-28

検査年月日	検査結果	原子力施設検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
令和 2 年 10 月 16 日	良	福富 晋一	茨城県原子力 主任技術者  ボイラー-タービン主任技術者 	なし

w

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録
共通事項

成績書管理番号：2-28

検査年月日：令和 2 年 10 月 16 日

検査場所：関西電力（株）高浜発電所

検査前確認事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	Ⓔ・一	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	Ⓔ・一	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	Ⓔ・一	

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録 (三号検査)

成績書管理番号：2-28

検査年月日：令和 2 年 10 月 16 日

検査場所：関西電力(株)高浜発電所

検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	Ⓔ・—	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	Ⓔ・—	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	Ⓔ・—	
系統構成が完了していること。	立会 記録確認	Ⓔ・—	

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録
(三号検査)

成績書管理番号：2-28

検査年月日：令和2年10月16日

検査場所：関西電力(株)高浜発電所

検査結果

検査対象			
原子炉冷却系統施設 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 主配管 別添1参照			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
系統性能検査 ・通水検査	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	良	(目視) 記録確認
備考 ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録(※)による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：T1-3-0005 ・目視で確認した範囲：添付資料3-3参照			

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録
(三号検査)
(立会検査)

成績書管理番号：2-28

検査年月日：令和 2 年 10 月 16 日

検査場所：関西電力(株)高浜発電所

検査結果

検査対象設備名	項目	測定値等	検査結果	検査方法
主配管※	系統性能検査 ・通水検査	-	良	目視
備考 ※対象範囲は別添2参照（燃料取替用水タンク～弁(1MOV-6400A、B)）				

工事計画本文 (原規規発第1606104号 平成28年6月10日 認可)

原子炉冷却系統施設

加圧水型発電用原子炉施設に係るもの（蒸気タービンに係るものを除く。）にあつては次の事項

7 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備に係る次の事項

(7) 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

・常設

変更前						変更後								
名	称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	名	称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	
		圧 力	温 度						圧 力	温 度				
		(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			
非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備	(注1) 燃料取替用水 タンク ～ 弁 (1MOV-6400 A、B)	(注2) 0	95	(注3)	(注3, 4)	SUS27TP	(注5) 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備	(注5) 燃料取替用水 タンク ～ 弁 (1MOV-6400 A、B)	変更なし	変更なし				
				(注3)	(注3, 4)					(注3)	(注3)	(注3)	(注3)	(注3)
				(注3)	(注3, 4)	(注7)			変更なし		(注6)	(注6)		
				355.6	11.1	SUS304TP			変更なし		355.6	11.1	SUS304TP	
				355.6	11.1	SUS304TP			変更なし		216.3	8.2		

(令和2年10月16日)
別添1 (1/5)

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料取換用水タンク～弁 (1-6400A、B)」と記載

(注2) SI単位に換算したものである。

(注3) 公称値

(注4) エルボについては既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。厚さについては管と同等以上のものを選定する。なお、記載内容は、設計図書による。

- 10
- (注5) 原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備（格納容器安全設備）及びその他発電用原子炉の附属施設（火災防護設備）のうち消火設備と兼用
- (注6) 重大事故等時に使用
- (注7) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SUS27TP」と記載
- (注8) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料取換用水タンク～逆止弁（1-8926）」と記載
- (注9) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- (注10) 計測制御系統施設のうちほう酸注入機能を有する設備と兼用
- (注11) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁（1-8926）～弁（1-LCV-115D、E）」と記載
- (注12) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器サンプ～弁（1-8811A、B）」と記載
- (注13) 記載の適正化を行う。記載内容は、既工事計画書「原子炉格納容器」による。
- (注14) 重大事故等時における使用時の値
- (注15) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（1-8811A、B）～弁（1-8812A、B）」と記載
- (注16) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SUS32TP」と記載
- (注17) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料取換用水タンク～逆止弁（1-8958）」と記載
- (注18) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁（1-8958）～弁（1-8809A、B）」と記載
- (注19) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料取換用水タンク～弁（1-5400）」と記載
- (注20) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん／高圧注入ポンプ出口連絡管分岐点～レジューサ（4×3）」と記載
- (注21) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ（4×3）～レジューサ（4×3）」と記載
- (注22) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ（4×3）～弁（1-8803A、B）」と記載
- (注23) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（1-8803A、B）～ほう酸注入タンク入口レジューサ（6×3）」と記載
- (注24) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ほう酸注入タンク出口レジューサ（6×3）～弁（1-8801A、B）」と記載
- (注25) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（1-8801A、B）～格納容器」と記載
- (注26) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん／高圧注入ポンプ出口連絡管分岐点～レジューサ（4×3）」と記載

- (注27) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (4×3) ～レジューサ (4×3)」と記載
- (注28) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (4×3) ～弁 (1-8815)」と記載
- (注29) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (1-8815) ～格納容器」と記載
- (注30) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ほう酸注入タンク入口ラインレジューサ (4×3) 出口分岐点～弁 (1-8816)」と記載
- (注31) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (1-8816) ～格納容器」と記載
- (注32) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「コールドレグへの高圧ラインのレジューサ (4×3) 出口分岐点～弁 (1-8814)」と記載
- 載
- (注33) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (1-8814) ～格納容器」と記載
- (注34) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (1-8818A、B) ～格納容器」と記載
- (注35) 余熱除去設備と兼用
- (注36) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「コールドレグへの注入母管分岐点～弁 (1-8819)」と記載
- (注37) エルボについては管と同等以上の厚さのものを選定する。
- (注38) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (1-8819) ～格納容器」と記載
- (注39) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器貫通部 #229～分岐点」と記載
- (注40) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁 (1-8944A、B、C)」と記載
- (注41) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (1-8944A、B、C) ～主冷却材管ループ低温側注入ライン合流点」と記載
- (注42) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(最小) 9.5」と記載
- (注43) 公称値は既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。
- (注44) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(最小) 9.5 / (最小) 9.5 / -」と記載
- (注45) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器貫通部 #262～分岐点」と記載
- (注46) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁 (1-8942A、B、C)」と記載
- (注47) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁～合流点」と記載
- (注48) エルボを示す。

- 12
- (注49) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器貫通部#261～分岐点」と記載
- (注50) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁(1-8939A、B、C)」と記載
- (注51) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器貫通部#276～分岐点」と記載
- (注52) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁(1-8937A、B、C)」と記載
- (注53) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁～合流点およびレジューサ(6×2)」と記載
- (注54) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁(1-8937C)及び弁(1-8939C)～弁(1-8940C)」と記載
- (注55) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(最小)9.5/(最小)9.5/(最小)9.5」と記載
- (注56) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器貫通部#263、224～分岐点」と記載
- (注57) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～弁(1-8973A、C)および弁(1-8972A、B)を経て弁(1-8973B)」と記載
- (注58) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁(1-8973A、B、C)～弁(1-8945A、B、C)」と記載
- (注59) 余熱除去設備及び計測制御系統施設のうちほう酸注入機能を有する設備と兼用
- (注60) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器貫通部#258～分岐点」と記載
- (注61) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～弁(1-8935A、B)」と記載
- (注62) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁(1-8935A、B)～弁(1-8940A、B)」と記載
- (注63) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「アキュムレータA、B、C～弁(1-8808A、B、C)」と記載
- (注64) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁(1-8808A、B、C)～弁(1-8948A、B、C)」と記載
- (注65) 本設備は既存の設備である。
- (注66) 原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備(格納容器安全設備)と兼用
- (注67) SUS32TP同等材(SUS316TP)への取替えを行う。
- (注68) 蒸気タービンの附属設備及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備(格納容器安全設備)と兼用
- (注69) SUS27TP同等材(SUS304TP)への取替えを行う。

13

工事計画認可申請	第7-2-2図
高浜発電所第1号機	
原子炉格納施設の系統図 (圧力低減設備その他の安全設備 (格納容器安全設備)) (2/8) (重大事故等対処設備)	
関西電力株式会社	

(原) 2014/10/10 別添2

検査結果一覧表

成績書管理番号：2-28

検査年月日	検査結果	原子力施設検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
令和 2 年 12 月 23 日	良	増本 豊	奈良県原子力主任技術者  技術センター主任技術者 	なし

ナ

関西電力株式会社高浜発電所第 1 号機 使用前検査記録
共通事項

成績書管理番号：2-28

検査年月日：令和 2 年 12 月 23 日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査前確認事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	◎良・一	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	◎良・一	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	◎良・一	

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録 (三号検査)

成績書管理番号：2-28

検査年月日：令和2年12月23日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	⊙・—	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	⊙・—	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	良・⊖	
系統構成が完了していること。	立会/ ⊙記録確認	⊙・—	

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録 (三号検査)

成績書管理番号：2-28

検査年月日：令和2年12月23日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査結果

検 査 対 象			
原子炉冷却系統施設 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 主配管 原子炉格納施設 格納容器安全設備 主配管			
		別添1及び別添2参照	
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
系統機能検査 ・通水検査	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	良	目視 記録確認
備考 ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録（※）による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：T1-3-0007、T1-3-0019 ・目視で確認した範囲：添付資料3-3参照			

原子炉冷却系統施設

加圧水型発電用原子炉施設に係るもの（蒸気タービンに係るものを除く。）にあつては次の事項

7 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備に係る次の事項

(7) 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

・常設

変更前						変更後					
名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 (注1) 燃料取替用水 タンク ～ 弁(1MOV-6400 A、B)	0 (注2)	95	(注3) 355.6	(注3, 4) 11.1	SUS27TP	非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 (注5) 燃料取替用水 タンク ～ 弁(1MOV-6400 A、B)	変更なし	変更なし	(注3) 355.6	(注3) 11.1	SUS304TP
			(注3) 355.6	(注3, 4) 11.1	(注7) SUS304TP				(注6) 216.3	(注6) 8.2	
						変更なし					

18

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 (注36) 弁(1MOV-8817 A、B)下流 分岐点 ～ 弁(1MOV-8819)	(注2) 4.1	200	(注3, 9) 273.1	(注3, 9) 25.4	(注9) SUS32TP	非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 変更なし			(注3) 273.1	(注3, 37) 9.3	SUS316TP
	変更なし										
(注38) 弁(1MOV-8819) ～ 格納容器貫通部 PEN#258	(注2) 17.16	200	(注3) 273.1	(注3) 25.4	SUS32TP	変更なし					

6/

変更前					変更後						
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
						(注168)	(注14)	(注14)	(注3)	(注3)	
						非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 復水タンク ブロー配管 接続口 ～ 弁(1CW-301) ～ 復水タンク	0	40	165.2	7.1	SUS304TP
									(注3)	(注3)	SUS304TP
									(注3)	(注3, 37)	SUS304TP
							(注14)	(注14)	(注3)	(注3)	
							1.3	40	165.2	7.1	
								—	—	SUS304TP	
								89.1	5.5		

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料取換用水タンク～弁(1-6400A、B)」と記載

(注2) SI単位に換算したものである。

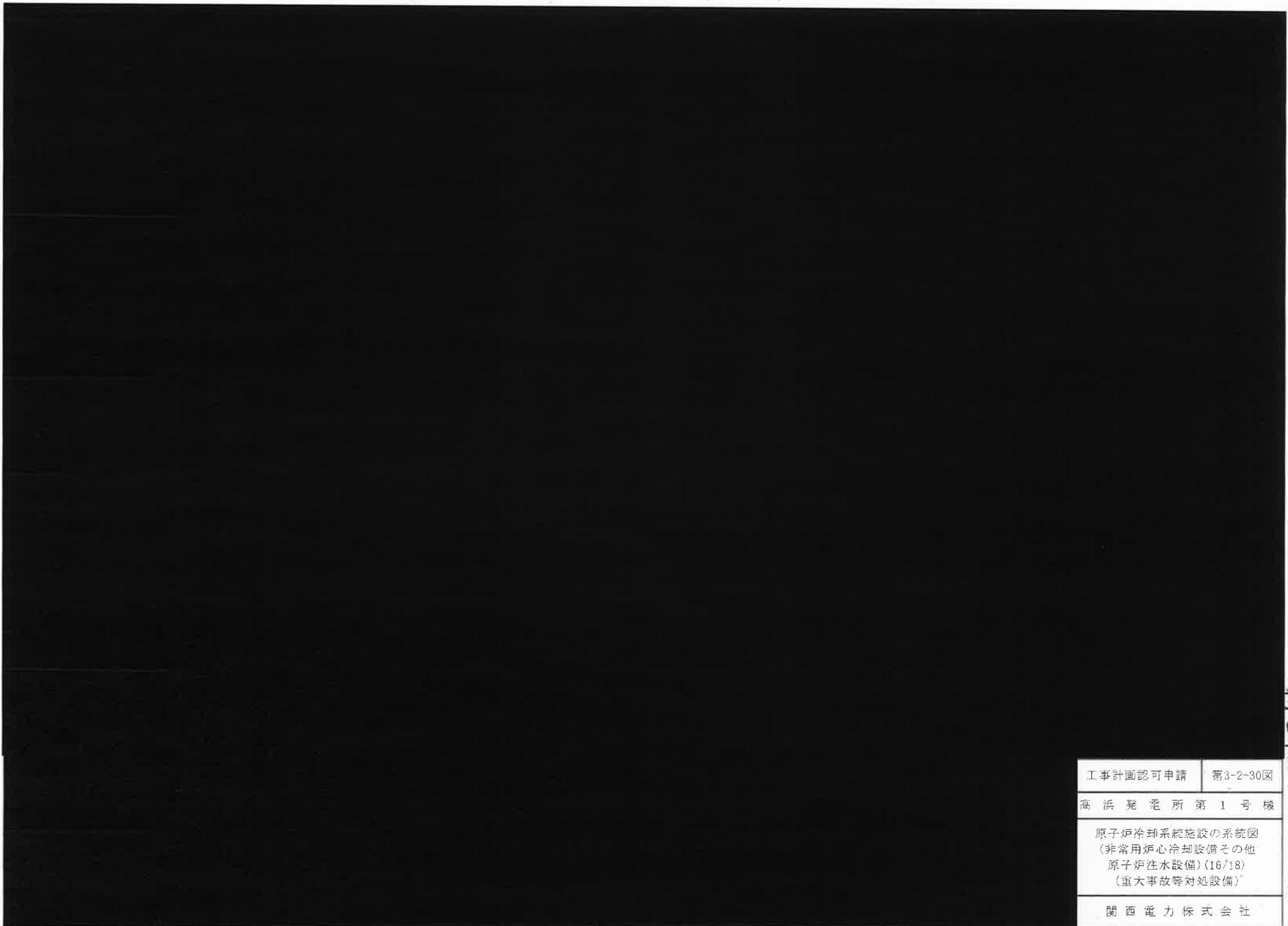
(注3) 公称値

(注4) エルボについては既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。厚さについては管と同等以上のものを選定する。なお、記載内容は、設計図書による。

- (注5) 原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備（格納容器安全設備）及びその他発電用原子炉の附属施設（火災防護設備）のうち消火設備と兼用
- (注6) 重大事故等時に使用
- (注7) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SUS27TP」と記載
- (注8) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料取換用水タンク～逆止弁（1-8926）」と記載
- (注9) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- (注10) 計測制御系統施設のうちほう酸注入機能を有する設備と兼用
- (注11) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁（1-8926）～弁（1-LCV-115D、E）」と記載
- (注12) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器サンプ～弁（1-8811A、B）」と記載
- (注13) 記載の適正化を行う。記載内容は、既工事計画書「原子炉格納容器」による。
- (注14) 重大事故等時における使用時の値
- (注15) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（1-8811A、B）～弁（1-8812A、B）」と記載
- (注16) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SUS32TP」と記載
- (注17) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料取換用水タンク～逆止弁（1-8958）」と記載
- (注18) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁（1-8958）～弁（1-8809A、B）」と記載
- (注19) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料取換用水タンク～弁（1-5400）」と記載
- (注20) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん／高圧注入ポンプ出口連絡管分岐点～レジューサ（4×3）」と記載
- (注21) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ（4×3）～レジューサ（4×3）」と記載
- (注22) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ（4×3）～弁（1-8803A、B）」と記載
- (注23) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（1-8803A、B）～ほう酸注入タンク入口レジューサ（6×3）」と記載
- (注24) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ほう酸注入タンク出口レジューサ（6×3）～弁（1-8801A、B）」と記載
- (注25) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（1-8801A、B）～格納容器」と記載
- (注26) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん／高圧注入ポンプ出口連絡管分岐点～レジューサ（4×3）」と記載

- (注27) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (4×3) ～レジャーサ (4×3)」と記載
- (注28) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (4×3) ～弁 (1-8815)」と記載
- (注29) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (1-8815) ～格納容器」と記載
- (注30) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ほう酸注入タンク入口ラインレジャーサ (4×3) 出口分岐点～弁 (1-8816)」と記載
- (注31) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (1-8816) ～格納容器」と記載
- (注32) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「コールドレグへの高圧ラインのレジャーサ (4×3) 出口分岐点～弁 (1-8814)」と記載
- 載
- (注33) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (1-8814) ～格納容器」と記載
- (注34) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (1-8818A、B) ～格納容器」と記載
- (注35) 余熱除去設備と兼用
- (注36) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「コールドレグへの注入母管分岐点～弁 (1-8819)」と記載
- (注37) エルボについては管と同等以上の厚さのものを選定する。
- (注38) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (1-8819) ～格納容器」と記載
- (注39) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器貫通部 #229～分岐点」と記載
- (注40) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁 (1-8944A、B、C)」と記載
- (注41) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (1-8944A、B、C) ～主冷却材管ループ低温側注入ライン合流点」と記載
- (注42) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(最小) 9.5」と記載
- (注43) 公称値は既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。
- (注44) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(最小) 9.5 / (最小) 9.5 / -」と記載
- (注45) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器貫通部 #262～分岐点」と記載
- (注46) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁 (1-8942A、B、C)」と記載
- (注47) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁～合流点」と記載
- (注48) エルボを示す。

- 23
- (注49) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器貫通部#261～分岐点」と記載
- (注50) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁(1-8939A、B、C)」と記載
- (注51) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器貫通部#276～分岐点」と記載
- (注52) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁(1-8937A、B、C)」と記載
- (注53) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁～合流点およびレジューサ(6×2)」と記載
- (注54) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁(1-8937C)及び弁(1-8939C)～弁(1-8940C)」と記載
- (注55) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(最小)9.5/(最小)9.5/(最小)9.5」と記載
- (注56) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器貫通部#263、224～分岐点」と記載
- (注57) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～弁(1-8973A、C)および弁(1-8972A、B)を経て弁(1-8973B)」と記載
- (注58) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁(1-8973A、B、C)～弁(1-8945A、B、C)」と記載
- (注59) 余熱除去設備及び計測制御系統施設のうちほう酸注入機能を有する設備と兼用
- (注60) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器貫通部#258～分岐点」と記載
- (注61) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～弁(1-8935A、B)」と記載
- (注62) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁(1-8935A、B)～弁(1-8940A、B)」と記載
- (注63) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「アキュムレータA、B、C～弁(1-8808A、B、C)」と記載
- (注64) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁(1-8808A、B、C)～弁(1-8948A、B、C)」と記載
- (注65) 本設備は既存の設備である。
- (注66) 原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備(格納容器安全設備)と兼用
- (注67) SUS32TP同等材(SUS316TP)への取替えを行う。
- (注68) 蒸気タービンの附属設備及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備(格納容器安全設備)と兼用
- (注69) SUS27TP同等材(SUS304TP)への取替えを行う。



工事計画認可申請	第3-2-30図
高浜発電所第1号機	
原子炉冷却系統施設の系統図 (非常用炉心冷却設備その他 原子炉注水設備)(16/18) (重大事故等対処設備)*	
関西電力株式会社	

25/A



工事計画認可申請	第3-2-18図
高浜発電所第1号機	
原子炉冷却系統施設の系統図 (非常用炉心冷却設備その他 原子炉注水設備) (4/18) (重大事故等対処設備)	
関西電力株式会社	

平成25年12月23日 別添2 (2/2)

関西電力株式会社
高浜発電所第1号機
使用前検査成績書

要領書番号：原規規収第1610071号99

成績書管理番号：2-29

令和2年12月

原子力規制委員会

使用前検査成績書

成績書管理番号：2-29

- 1 発電所名 関西電力株式会社高浜発電所第1号機
- 2 検査申請 検査申請一覧表のとおり
- 3 検査期日 自 令和 2 年 12 月 23 日
至 令和 2 年 12 月 23 日
- 4 検査場所 使用前検査記録のとおり
- 5 検査実施者 検査結果一覧表のとおり
- 6 検査結果 検査結果一覧表のとおり
- 7 添付資料 使用前検査記録

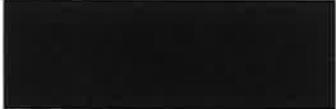
検査申請一覧表

検査申請書番号 (申請年月日)	関原発第299号(平成28年10月7日) 関原発第434号(平成30年 3月20日) 関原発第 46号(平成30年 4月20日) 関原発第202号(平成30年 7月 4日) 関原発第259号(平成30年 8月20日) 関原発第415号(平成30年12月 5日) 関原発第504号(平成31年 2月 1日) 関原発第512号(平成31年 2月 6日) 関原発第582号(平成31年 3月18日) 関原発第 3号(平成31年 4月 4日) 関原発第 68号(2019年 5月16日) 関原発第115号(2019年 6月24日) 関原発第204号(2019年 8月23日) 関原発第478号(2020年 1月23日) 関原発第510号(2020年 1月31日) 関原発第542号(2020年 2月26日) 関原発第609号(2020年3月24日) 関原発第 20号(2020年4月 7日) 関原発第236号(2020年8月21日)
--------------------	--

上記以降の変更を検査申請書の変更申請により確認し表中に追記する。

検査結果一覧表

成績書管理番号：2-29

検査年月日	検査結果	原子力施設検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
令和 2 年 12 月 23 日	良	増本豊	東京電力原子力主任技術者  ボクワ-1-9-01主任技術者 	なし

6

関西電力株式会社高浜発電所第 1 号機 使用前検査記録
共通事項

成績書管理番号：2-29

検査年月日：令和 2 年 12 月 23 日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査前確認事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	⓪・—	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	⓪・—	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	⓪・—	

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録 (三号検査)

成績書管理番号：2-29

検査年月日：令和2年 12月 23日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	良・—	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	良・—	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	良・⊖	
系統構成が完了していること。	立会/ 記録確認	良・—	

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録 (三号検査)

成績書管理番号：2-29

検査年月日：令和2年 12月 23日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査結果

検査対象			
原子炉冷却系統施設 原子炉補機冷却設備 主配管 別添1及び別添2参照			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
系統機能検査 ・通水検査	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	<div style="font-size: 2em; font-weight: bold;">良</div>	目視 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px; display: inline-block;">記録確認</div>
備考 ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録（※）による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：T1-3-0014、T1-3-0018 ・目視で確認した範囲：添付資料3-3参照			

原子炉冷却系統施設

加圧水型発電用原子炉施設に係るもの（蒸気タービンに係るものを除く。）にあつては、の事項

9 原子炉補機冷却設備に係る次の事項

(8) 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

・常設

変更前						変更後					
名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
原子炉補機冷却設備 B余熱除去ポンプ ～ B余熱除去ポンプ 出口配管分岐点	(注2) 0.98	95	(注3, 4) 21.3	(注3, 4) 2.8	(注4) STPG42	変更なし	(注4) 1.2	変更なし	変更なし		
			(注3) 48.3	(注3) 3.7	STPG42				(注3) 48.3	(注3) 3.7	STPT370
	-					変更なし	(注4) 1.2	(注4) 95	(注3, 6) 48.3	(注3, 6) 3.7	(注6) STPT370
									(注3, 5, 6) 48.7	(注5, 6) 5.5	(注5, 6) ASTM A105 Gr II (注3) (S25C) (5.5) 相当)

(次ページに続く)

変更前					変更後							
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	
	圧力	温度					圧力	温度				
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)		
原子炉補機冷却設備	(注45)					原子炉補機冷却設備	変更なし	1.2	95	(注3, 5)	(注5)	(注5)
										(最小)	4.0	
B余熱除去ポンプ	-							(注4)	(注4)	(穴径)	/	ASTM
~										15.4	(最小)	A105
B余熱除去ポンプ										/	4.0	Gr II
出口配管分岐点										(穴径)	(注3)	(S25C)
										15.4	(4.0)	相当)
										/	4.0)	

(次ページに続く)

8

変更前						変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	
	圧力	温度					圧力	温度				
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)		
原子炉補機冷却設備	(注45)					原子炉補機冷却設備	変更なし	(注4)	95	(注3)	(注3)	STPT370
										48.3	3.7	
										/	/	
										-	-	
B余熱除去ポンプ	-					原子炉補機冷却設備	1.2	(注4)	(注3)	(注3)	STPT370	
~									48.3	3.7		
B余熱除去ポンプ									/	/		
出口配管分岐点									-	-		
									(注3)	(注3)		
									48.3	3.7		
									/	/		
									-	-	STPT370	
									/	/		
									48.6	3.7		

(次ページに続く)

9

10

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)	
原子炉補機冷却設備 B余熱除去ポンプ ～ B余熱除去ポンプ 出口配管分岐点						原子炉補機冷却設備 変更なし			(注3, 5)	(注5)	
	(注45)									(最小)	5.5
									(差し込み部の内径)	/	
									48.7	/	(注5)
							(注4)	(注4)	(最小)	5.5	ASTM
							1.2	95	/	5.5	A105
									(差し込み部の内径)	(注3)	Gr II
									48.7	/	(S25C相当)
										5.5)	

11

変更前						変更後					
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
(注48) C充てん/高压 注入ポンプ入口 分岐点 ~ C充てん/高压 注入ポンプ 冷却水入口配管 合流点	(注2) 0.98	95	(注3) 60.3	(注3) 3.9	STPG42	原子炉補機冷却設備	変更なし	変更なし	変更なし		
									(注3) 60.3	(注3) 3.9	STPT370

変更前						変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	
	圧力	温度					圧力	温度				
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)		
原子炉補機冷却設備	(注50) A充てん/高压 注入ポンプ及び B充てん/高压 注入ポンプ 冷却水出口配管 分岐点 ~ A、B充てん/ 高压注入ポンプ 出口配管分岐点	(注2) 0.98	95	(注3) 60.3	(注3) 3.9	STPG42	原子炉補機冷却設備	変更なし				変更なし
				(注3) 60.3	(注3) 3.9	STPT370						

変更前						変更後							
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料		
原子炉補機冷却設備	(注50)	(注2)	(注3)	(注3)	STPG42	原子炉補機冷却設備	変更なし	変更なし	変更なし				
	B充てん/高压 注入ポンプ	0.98	95	60.3	3.9		1.2	変更なし	(注3)	(注3)	60.3	3.9	STPT370
	~								(注3, 5, 6)	(注3, 5, 6)	60.3	3.9	STPT370
	B充てん/高压 注入ポンプ 冷却水出口配管 分岐点						1.2	(注4)	(注4)	(注3)	(注3)	60.5 / - / 60.3	3.9 / - / 3.9

(次ページに続く)

1/

変更前					変更後							
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	
原子炉補機冷却設備	(注50)	B充てん/高圧 注入ポンプ ～ B充てん/高圧 注入ポンプ 冷却水出口配管 分岐点	—			原子炉補機冷却設備	変更なし	(注4) 1.2	(注4) 95	(注3, 5)	(注5)	(注5) S25C
										(差し込み部の内径)	(最小)	
									61.1	6.1		
									/	/		
									(差し込み部の内径)	(最小)		
									61.1	6.1		
									/	/		
									(差し込み部の内径)	(最小)		
									61.1	6.1		

(次ページに続く)

15

変更前						変更後						
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	
原子炉補機冷却設備	(注50)					原子炉補機冷却設備	変更なし	(注4) 1.2	(注4) 95	(注3, 5)	(注5)	(注6) S25C
	B充てん/高圧 注入ポンプ ~ B充てん/高圧 注入ポンプ 冷却水出口配管 分岐点	-	-	-	-					(差し込み (最小) 部の内径) 61.1 6.1 / / (差し込み (最小) 部の内径) 61.1 6.1		

16

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)	
<small>(注5)</small> A、B、C 充てん／高圧 注入ポンプ出口 配管分岐点 及び C充てん／高圧 注入ポンプ 冷却水 出口配管 分岐点 ～ 充てん／高圧 注入ポンプ室 空調装置冷却 戻りライン 合流点	<small>(注2)</small> 0.98	95	<small>(注3)</small> 88.9	<small>(注3)</small> 5.5	STPG42	原子炉補機冷却設備 変更なし	変更なし				
							<small>(注3)</small> 88.9	<small>(注3)</small> 5.5	STPT370		

変更前					変更後						
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
						原子炉補機冷却設備			(注3)	(注3)	
						Aa、Ab 海水ストレーナ			267.4	9.3	
						海水供給接続口	(注4)	(注4)	/	/	
						～	1.2	40	-	-	STPT370
						Aa、Ab 海水ストレーナ			/	/	
									267.4	9.3	

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水クーラA、B、C～ティ (20×20×16)」と記載

(注2) SI単位に換算したものである。

(注3) 公称値

(注4) 重大事故等時における使用時の値

(注5) 本設備は既存の設備である。

(注6) エルボを示す。

(注7) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水クーラ出口連絡管」と記載

(注8) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ヘッドA、B：ティ (20×20×16) ～レジャーサ (20×14)」と記載

(注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (20×14) ～内部スプレクーラ」と記載

(注10) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ヘッドC：ティ (16×16×16) ～レジャーサ (16×12)」と記載

(注11) 当該ラインについては、主配管に該当しないため記載の適正化を行う。

(注12) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (16×12) ～ティ (20×20×16)」と記載

- (注13) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ヘッダA、B：内部スプレクーラ～レジューサ（20×14）」と記載
- (注14) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ（20×14）～ティ（20×20×16）」と記載
- (注15) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプ入口連絡管」と記載
- (注16) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ティ（20×20×16）～1次系冷却水ポンプA、B、C、D」と記載
- (注17) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプ出口レジューサ（16×12）～ティ（20×20×16）」と記載
- (注18) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプ出口連絡管」と記載
- (注19) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプA、D出口ティ（20×20×16）～1次系冷却水クーラA、C入口ティ（20×20×16）」と記載
- (注20) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水クーラ入口連絡管」と記載
- (注21) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ティ（20×20×16）～1次系冷却水クーラA、C」と記載
- (注22) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ（20×16）～1次系冷却水クーラB」と記載
- (注23) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「母管分岐点～余熱除去クーラ（RH-2）A、B」と記載
- (注24) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去クーラ（RH-2）A、B～戻母管合流点」と記載
- (注25) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「母管分岐点～冷却材ポンプ（RC-3）A、B、Cへの分岐点」と記載
- (注26) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「戻管合流点～レジューサ（8×6）」と記載
- (注27) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「戻管合流点～弁（1-FCV-1241）」と記載
- (注28) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプ入口分岐点～弁（1-5105A、B）」と記載
- (注29) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（1-5105A、B）～1次系冷却水タンク」と記載
- (注30) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～燃料ピットクーラ」と記載
- (注31) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料ピットクーラ～1次系機器冷却水母管合流点」と記載
- (注32) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～余剰抽出水クーラ」と記載
- (注33) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余剰抽出水クーラ～1次系冷却水戻母管合流点」と記載
- (注34) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ室空調装置入

ロレジャーサ (3×2) 」と記載

- (注35) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (3×2) ～1次系機器冷却水戻り母管合流点」と記載
- (注36) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～レジャーサ (4×2) 」と記載
- (注37) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (4×2) ～1次系機器冷却水母管合流点」と記載
- (注38) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ室空調装置冷却ライン分岐点～レジャーサ (2×1 1/2) 」と記載
- (注39) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプ冷却ライン分岐点～余熱除去ポンプ」と記載
- (注40) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- (注41) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (2×1 1/2) ～レジャーサ (1×1/2) 」と記載
- (注42) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (1×1/2) ～内部スプレポンプ」と記載
- (注43) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内部スプレポンプ～レジャーサ (1×1/2) 」と記載
- (注44) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (1×1/2) ～レジャーサ (2×1 1/2) 」と記載
- (注45) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプ～余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ冷却もどりライン合流点」と記載
- 19 (注46) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (2×1 1/2) ～レジャーサ (3×2) 」及び「レジャーサ (3×2) ～余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ室空調装置冷却ライン合流点」と記載
- (注47) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てんポンプ室空調装置冷却ライン分岐点～充てん／高圧注入ポンプ分岐点」と記載
- (注48) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん／高圧注入ポンプ入口分岐点～充てん／高圧注入ポンプ」と記載
- (注49) エルボについては管と同等以上の厚さのものを選定する。
- (注50) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん／高圧注入ポンプ～充てん／高圧注入ポンプ出口分岐点」と記載
- (注51) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん／高圧注入ポンプ出口分岐点～充てんポンプ室空調装置冷却もどりライン合流点」と記載
- (注52) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～計器用コンプレッサパッケージ」と記載

- (注53) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「計器用コンプレッサパッケージ～1次系機器冷却水戻り母管合流点」と記載
- (注54) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～レジューサ (12×6) および (12×8)」と記載
- (注55) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (12×6) ～レジューサ (6×4)」と記載
- (注56) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (6×4) ～レジューサ (4×2)」と記載
- (注57) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器循環空調装置～レジューサ (4×2) および合流点」と記載
- (注58) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (4×2) および分岐点～格納容器循環空調装置」と記載
- (注59) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (4×2) ～レジューサ (6×4) 及び合流点」と記載
- (注60) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (6×4) ～レジューサ (12×6)」と記載
- (注61) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (12×6) および (12×8) ～1次系機器冷却水戻り母管合流点」と記載
- (注62) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水ポンプ～中間建屋入口」と記載
- (注63) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SS41」と記載
- (注64) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「中間建屋入口～レジューサ (36×30)」と記載
- (注65) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (36×30) ～ティ (36×36×30)」と記載
- (注66) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水母管分岐点～1次系冷却水クーラ」と記載
- (注67) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水クーラ～海水戻り母管分岐点」と記載
- (注68) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ティ (36×36×24) ～中間建屋出口 (埋設部を除く)」と記載
- (注69) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水母管分岐点～レジューサ (10×8)」と記載
- (注70) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (10×8) ～ディーゼル発電機」と記載
- (注71) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ディーゼル発電機～レジューサ (12×8)」と記載
- (注72) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (12×8) ～レジューサ (16×12)」と記載
- (注73) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (16×12) ～海水戻り母管合流点」と記載
- (注74) STPT38同等材 (STPT370) への取替えを行う。
- (注75) STPG42同等材 (STPG410) への取替えを行う。
- (注76) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「STPG42」と記載
- (注77) 本設備は記載の適正化のみを行うものであり、手続き対象外である。

工事計画認可申請	第3-2-44図
高浜発電所第1号機	
原子炉冷却系統施設の系統図 (原子炉補機冷却設備)(10/12) (重大事故等対処設備)	
関西電力株式会社	

別添2 (1/2)

2)



工事計画認可申請	第3-2-40図
高浜発電所第1号機	
原子炉冷却系統施設の系統図 (原子炉補機冷却設備)(6/12) (重大事故等対処設備)	
関西電力株式会社	

関西電力株式会社
高浜発電所第1号機
使用前検査成績書

要領書番号：原規規収第1610071号99

成績書管理番号：2-30

令和2年12月

原子力規制委員会

使用前検査成績書

成績書管理番号：2-30

- 1 発電所名 関西電力株式会社高浜発電所第1号機
- 2 検査申請 検査申請一覧表のとおり
- 3 検査期日 自 令和 2 年 12 月 23 日
至 令和 2 年 12 月 23 日
- 4 検査場所 使用前検査記録のとおり
- 5 検査実施者 検査結果一覧表のとおり
- 6 検査結果 検査結果一覧表のとおり
- 7 添付資料 使用前検査記録

検査申請一覧表

検査申請書番号 (申請年月日)	関原発第299号(平成28年10月7日) 関原発第434号(平成30年 3月20日) 関原発第 46号(平成30年 4月20日) 関原発第202号(平成30年 7月 4日) 関原発第259号(平成30年 8月20日) 関原発第415号(平成30年12月 5日) 関原発第504号(平成31年 2月 1日) 関原発第512号(平成31年 2月 6日) 関原発第582号(平成31年 3月18日) 関原発第 3号(平成31年 4月 4日) 関原発第 68号(2019年 5月16日) 関原発第115号(2019年 6月24日) 関原発第204号(2019年 8月23日) 関原発第478号(2020年 1月23日) 関原発第510号(2020年 1月31日) 関原発第542号(2020年 2月26日) 関原発第609号(2020年3月24日) 関原発第 20号(2020年4月 7日) 関原発第236号(2020年8月21日)
--------------------	--

上記以降の変更を検査申請書の変更申請により確認し表中に追記する。

検査結果一覧表

成績書管理番号：2-30

検査年月日	検査結果	原子力施設検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
令和 2 年 12 月 23 日	良	増本 豊	奈良県原子力 主任技術者 [Redacted] 技術-9-01 主任技術者 [Redacted]	なし

ウ

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録
共通事項

成績書管理番号：2-30

検査年月日：令和2年12月23日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査前確認事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	Ⓔ・一	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	Ⓔ・一	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	Ⓔ・一	

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録 (三号検査)

成績書管理番号：2-30

検査年月日：令和2年 12 月 23 日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	良・—	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	良・—	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	良・☹	
系統構成が完了していること。	立会/ 記録確認	良・—	

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録 (三号検査)

成績書管理番号：2-30

検査年月日：令和2年12月23日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査結果

検査対象			
原子炉冷却系統施設 原子炉補機冷却設備 主配管 別添1及び別添2参照			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
系統機能検査 ・通水検査	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	良	目視 記録確認
備考 ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録（※）による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：T1-3-0014、T1-3-0015 ・目視で確認した範囲：添付資料3-3参照			

原子炉冷却系統施設

加圧水型発電用原子炉施設に係るもの（蒸気タービンに係るものを除く。）にあっては次の事項

9 原子炉補機冷却設備に係る次の事項

(8) 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

・常設

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)	
(注62) 海水ポンプ ~ Aa、Ab 海水ストレータ 及び 中間建屋入口 (B系)	(注2)	40	(注3)	(注3)	(注63)	原子炉補機冷却設備	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
			609.6	10	SS400						
			(注3)	(注3)	(注63)						
	914.4	12	SS41								
			(注3)	(注3)	(注63)						
			914.4	12	SS400						
									(注3)	(注3)	
									914.4	12	SB410
									(注3, 5, 6)	(注3, 5, 6)	(注5, 6)
									914.4	12	SS41
									(注3, 5, 6)	(注3, 5, 6)	(注5, 6)
	(注4)	(注4)					0.7	40	914.4	12	SS400
									(注3, 6)	(注3, 6)	(注6)
									914.4	12	SB410

7

8

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
原子炉補機冷却設備 海水ポンプ ～ Aa、Ab 海水ストレーナ 及び 中間建屋入口 (B系)	(注2) 0.7	40	(注3) 609.6	(注3) 10	(注63) SS400	原子炉補機冷却設備 変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
			(注3) 914.4	(注3) 12	SS41						
			(注3) 914.4	(注3) 12	SS400						
	(注4) 0.7	40	(注3) 914.4	(注3) 12	SB410		(注3, 5, 6) 914.4	(注3, 5, 6) 12	(注5, 6) SS41		
(注3, 5, 6) 914.4			(注3, 5, 6) 12	(注5, 6) SS400							
(注3, 6) 914.4			(注3, 6) 12	(注6) SB410							

6

変 更 前						変 更 後					
名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料
	圧 力	温 度					圧 力	温 度			
<small>(注62)</small> 原子炉補機冷却設備 Aa、Ab 海水ストレーナ ~ 中間建屋入口 (A系)			<small>(注3)</small> 914.4	<small>(注3)</small> 12	SS41	原子炉補機冷却設備 変更なし	変更なし <small>(注4)</small> 1.2	変更なし	<small>(注3)</small> 914.4	<small>(注3)</small> 12	SM400B
			<small>(注3)</small> 914.4	<small>(注3)</small> 12	SS400				<small>(注3)</small> 914.4	<small>(注3)</small> 15	SB480
				<small>(注3)</small> 914.4	<small>(注3)</small> 25				SB480		
				<small>(注4)</small> 1.2	<small>(注4)</small> 40				<small>(注3, 5, 6)</small> 914.4	<small>(注3, 5, 6)</small> 12	<small>(注5, 6)</small> SS41

(次ページに続く)

変更前						変更後								
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料			
	圧力	温度					圧力	温度						
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)				
原子炉補機冷却設備	<small>(注62)</small> Aa、Ab 海水ストレーナ ～ 中間建屋入口 (A系)					原子炉補機冷却設備	変更なし					<small>(注3)</small> 914.4 12		SM400B
												<small>(注4)</small> 1.2	<small>(注4)</small> 40	

10

工事計画本文 (原規規発第 1606104 号 平成 28 年 6 月 10 日 認可)

変更前						変更後						
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	
原子炉補機冷却設備 海水供給母管 分岐点 ～ 1次系 冷却水クーラ A、B、C	(注2) 0.7	40	(注3) 609.6	(注3) 12.0	SS41	原子炉補機冷却設備 変更なし	変更なし		変更なし			
			(注3,6) 609.6	(注3,6) 12.7	(注6) SS41				(注3) 609.6	(注3) 12.0	SM400B	
							変更なし			(注3,5) 762.0	(注3,5) 12.0	(注5) SS41
							(注4) 0.7	(注4) 40	(注3,5,6) 762.0	(注3,5,6) 12.7	(注5,6) SS41	
										(注3,5) 762.0	(注3,5) 12.7	(注5) SS41
										609.6	12.7	

(次ページに続く)

工事計画本文（原規規発第 1606104 号 平成 28 年 6 月 10 日 認可）

変更前						変更後					
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
原子炉補機冷却設備	(注66) 海水供給母管 分岐点 ～ 1次系 冷却水クーラ A、B、C	(注2) 0.7	40	(注3)	(注3)	変更なし	1.2	変更なし	(注3)	(注3)	変更なし
				609.6	12.0				609.6	12.0	
	(注3,6)	(注3,6)	(注6)	609.6	12.7	SS41	(注4) 1.2	変更なし			
(注67)	1次系 冷却水クーラ A、B、C ～ 海水戻り母管 分岐点 A、B、C	(注2) 0.7	40	(注3)	(注3)	変更なし					
				609.6	12.0		SS41				
			(注3)	(注3,6)	(注6)						
			609.6	12.7	SS41						

12

工事計画本文（関原発第 121 号 平成 30 年 5 月 24 日 にて軽微変更届出）

変更前						変更後					
名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料
	圧 力	温 度					圧 力	温 度			
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)	
原子炉補機冷却設備	0.7	40	(注3, 78)	(注3, 78)	(注78)	原子炉補機冷却設備	変更なし				
			609.6	12.0	SS400						
			(注3)	(注3)							
	609.6	12.0	SM400B								
	(注3, 6, 78)	(注3, 6, 78)	(注6, 78)								
			609.6	12.7	SS400						
	(注79, 80)	(注79, 80)	(注3, 78, 80)	(注3, 78, 80)	(注78, 80)						
	0.7	40	762.0	12.0	SS400						
	0.7	40	(注3, 6, 78)	(注3, 6, 78)	(注6, 78)						
			762.0	12.7	SS400						
(注4)			(注4)	(注3, 78)	(注3, 78)						
			762.0	12.7	(注78)						
			609.6	12.7	SS400						

(次ページに続く)

13

工事計画本文（関原発第 121 号 平成 30 年 5 月 24 日 にて軽微変更届出）

変更前						変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	
	圧力	温度					圧力	温度				
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)		
原子炉補機冷却設備	海水供給母管 分岐点 ～ 1次系 冷却水クーラ A、B、C	0.7 <small>(注4)</small>	40	<small>(注3, 78)</small> 609.6	<small>(注3, 78)</small> 12.0	原子炉補機冷却設備	変更なし					
				<small>(注3)</small> 609.6	<small>(注3)</small> 12.0							
	<small>(注4)</small> 1.2	40	<small>(注3, 6, 78)</small> 609.6	<small>(注3, 6, 78)</small> 12.7	<small>(注6, 78)</small> SS400							
	1次系 冷却水クーラ A、B、C ～ 海水戻り母管 分岐点 A、B、C		0.7	<small>(注3, 78)</small> 609.6	<small>(注3, 78)</small> 12.0	<small>(注78)</small> SS400						
<small>(注3, 6, 78)</small> 609.6		<small>(注3, 6, 78)</small> 12.7		<small>(注6, 78)</small> SS400								

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
						原子炉補機冷却設備			(注3)	(注3)	
						Aa、Ab 海水ストレーナ			267.4	9.3	
						海水供給接続口	(注4)	(注4)	/	/	
						～	1.2	40	—	—	STPT370
						Aa、Ab 海水ストレーナ			/	/	
									267.4	9.3	

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水クーラA、B、C～ティ (20×20×16)」と記載

(注2) SI単位に換算したものである。

(注3) 公称値

(注4) 重大事故等時における使用時の値

(注5) 本設備は既存の設備である。

(注6) エルボを示す。

(注7) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水クーラ出口連絡管」と記載

(注8) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ヘッダA、B：ティ (20×20×16) ～レジューサ (20×14)」と記載

(注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (20×14) ～内部スプレクーラ」と記載

(注10) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ヘッダC：ティ (16×16×16) ～レジューサ (16×12)」と記載

(注11) 当該ラインについては、主配管に該当しないため記載の適正化を行う。

(注12) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (16×12) ～ティ (20×20×16)」と記載

- 96
- (注13) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ヘッダA、B：内部スプレクーラ～レジューサ (20×14)」と記載
- (注14) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (20×14) ～ティ (20×20×16)」と記載
- (注15) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプ入口連絡管」と記載
- (注16) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ティ (20×20×16) ～1次系冷却水ポンプA、B、C、D」と記載
- (注17) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプ出口レジューサ (16×12) ～ティ (20×20×16)」と記載
- (注18) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプ出口連絡管」と記載
- (注19) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプA、D出口ティ (20×20×16) ～1次系冷却水クーラA、C入口ティ (20×20×16)」と記載
- (注20) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水クーラ入口連絡管」と記載
- (注21) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ティ (20×20×16) ～1次系冷却水クーラA、C」と記載
- (注22) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (20×16) ～1次系冷却水クーラB」と記載
- (注23) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「母管分岐点～余熱除去クーラ (RH-2) A、B」と記載
- (注24) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去クーラ (RH-2) A、B～戻母管合流点」と記載
- (注25) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「母管分岐点～冷却材ポンプ (RC-3) A、B、Cへの分岐点」と記載
- (注26) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「戻管合流点～レジューサ (8×6)」と記載
- (注27) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「戻管合流点～弁 (1-FCV-1241)」と記載
- (注28) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプ入口分岐点～弁 (1-5105A、B)」と記載
- (注29) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (1-5105A、B) ～1次系冷却水タンク」と記載
- (注30) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～燃料ピットクーラ」と記載
- (注31) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料ピットクーラ～1次系機器冷却水母管合流点」と記載
- (注32) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～余剰抽出水クーラ」と記載
- (注33) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余剰抽出水クーラ～1次系冷却水戻母管合流点」と記載
- (注34) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ室空調装置入

ロレジャーサ (3×2) 」と記載

- (注35) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (3×2) ～1次系機器冷却水戻り母管合流点」と記載
- (注36) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～レジャーサ (4×2) 」と記載
- (注37) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (4×2) ～1次系機器冷却水母管合流点」と記載
- (注38) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ室空調装置冷却ライン分岐点～レジャーサ (2×1 1/2) 」と記載
- (注39) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプ冷却ライン分岐点～余熱除去ポンプ」と記載
- (注40) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- (注41) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (2×1 1/2) ～レジャーサ (1×1/2) 」と記載
- (注42) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (1×1/2) ～内部スプレポンプ」と記載
- (注43) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内部スプレポンプ～レジャーサ (1×1/2) 」と記載
- (注44) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (1×1/2) ～レジャーサ (2×1 1/2) 」と記載
- (注45) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプ～余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ冷却もどりライン合流点」と記載
- (注46) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (2×1 1/2) ～レジャーサ (3×2) 」及び「レジャーサ (3×2) ～余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ室空調装置冷却ライン合流点」と記載
- (注47) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てんポンプ室空調装置冷却ライン分岐点～充てん／高圧注入ポンプ分岐点」と記載
- (注48) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん／高圧注入ポンプ入口分岐点～充てん／高圧注入ポンプ」と記載
- (注49) エルボについては管と同等以上の厚さのものを選定する。
- (注50) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん／高圧注入ポンプ～充てん／高圧注入ポンプ出口分岐点」と記載
- (注51) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん／高圧注入ポンプ出口分岐点～充てんポンプ室空調装置冷却もどりライン合流点」と記載
- (注52) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～計器用コンプレッサパッケージ」と記載

工事計画本文（原規規発第 1606104 号 平成 28 年 6 月 10 日 認可）

- （注53）記載の適正化を行う。既工事計画書には「計器用コンプレッサパッケージ～1次系機器冷却水戻り母管合流点」と記載
- （注54）記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～レジューサ（12×6）および（12×8）」と記載
- （注55）記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ（12×6）～レジューサ（6×4）」と記載
- （注56）記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ（6×4）～レジューサ（4×2）」と記載
- （注57）記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器循環空調装置～レジューサ（4×2）および合流点」と記載
- （注58）記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ（4×2）および分岐点～格納容器循環空調装置」と記載
- （注59）記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ（4×2）～レジューサ（6×4）及び合流点」と記載
- （注60）記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ（6×4）～レジューサ（12×6）」と記載
- （注61）記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ（12×6）および（12×8）～1次系機器冷却水戻り母管合流点」と記載
- （注62）記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水ポンプ～中間建屋入口」と記載
- （注63）記載の適正化を行う。既工事計画書には「SS41」と記載
- （注64）記載の適正化を行う。既工事計画書には「中間建屋入口～レジューサ（36×30）」と記載
- （注65）記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ（36×30）～ティ（36×36×30）」と記載
- （注66）記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水母管分岐点～1次系冷却水クーラ」と記載
- （注67）記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水クーラ～海水戻り母管分岐点」と記載
- （注68）記載の適正化を行う。既工事計画書には「ティ（36×36×24）～中間建屋出口（埋設部を除く）」と記載
- （注69）記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水母管分岐点～レジューサ（10×8）」と記載
- （注70）記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ（10×8）～ディーゼル発電機」と記載
- （注71）記載の適正化を行う。既工事計画書には「ディーゼル発電機～レジューサ（12×8）」と記載
- （注72）記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ（12×8）～レジューサ（16×12）」と記載
- （注73）記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ（16×12）～海水戻り母管合流点」と記載
- （注74）STPT38同等材（STPT370）への取替えを行う。
- （注75）STPG42同等材（STPG410）への取替えを行う。
- （注76）記載の適正化を行う。既工事計画書には「STPG42」と記載
- （注77）本設備は記載の適正化のみを行うものであり、手続き対象外である。

工事計画本文（関原発第 121 号 平成 30 年 5 月 24 日 にて軽微変更届出）

- 61
- (注54) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～レジューサ（12×6）および（12×8）」と記載
 - (注55) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ（12×6）～レジューサ（6×4）」と記載
 - (注56) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ（6×4）～レジューサ（4×2）」と記載
 - (注57) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器循環空調装置～レジューサ（4×2）および合流点」と記載
 - (注58) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ（4×2）および分岐点～格納容器循環空調装置」と記載
 - (注59) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ（4×2）～レジューサ（6×4）及び合流点」と記載
 - (注60) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ（6×4）～レジューサ（12×6）」と記載
 - (注61) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ（12×6）および（12×8）～1次系機器冷却水戻母管合流点」と記載
 - (注62) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水ポンプ～中間建屋入口」と記載
 - (注63) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SS41」と記載
 - (注70) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ（10×8）～ディーゼル発電機」と記載
 - (注71) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ディーゼル発電機～レジューサ（12×8）」と記載
 - (注72) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ（12×8）～レジューサ（16×12）」と記載
 - (注73) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ（16×12）～海水戻母管合流点」と記載
 - (注74) STPT38同等材（STPT370）への取替えを行う。
 - (注75) STPG42同等材（STPG410）への取替えを行う。
 - (注76) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「STPG42」と記載
 - (注77) 本設備は記載の適正化のみを行うものであり、手続き対象外である。
 - (注78) SS41同等材（SS400）への取替えを行う。
 - (注79) 注記について記載の適正化を行う。平成28年6月10日付け原規規発第1606104号にて認可された既工事計画書に記載の「重大事故等時における使用時の値」を削除
 - (注80) 記載の適正化を行う。平成28年6月10日付け原規規発第1606104号にて認可された既工事計画書には変更後に記載

20/E



工事計画認可申請	第3-2-36図
高浜発電所第1号機	
原子炉冷却系統施設の系統図 (原子炉補機冷却設備)(2/12) (重大事故等対処設備)	
関西電力株式会社	

別添2